

やまなしの教育に関するアンケート調査

最 終 報 告 書

平成 30 年 6 月

山 梨 県 教 育 委 員 会

目 次

○ 調査の概要

- 1 調査目的
- 2 調査内容
- 3 調査仕様
- 4 回収結果
- 5 集計方法について
- 6 前回アンケート調査結果(平成25年7月実施)との比較について

○ 調査結果のまとめ

○ 調査結果

○ 調査基本事項

子供の教育(学校)について

幼児期の教育

- 問1 幼児期の教育の満足度について
- 問2 幼児期の教育においてどのようなことに力を入れていけばよいか

小学校の教育

- 問3 小学校の教育の満足度について
- 問4 小学校の教育においてどのようなことに力を入れていけばよいか

中学校の教育

- 問5 中学校の教育の満足度について
- 問6 中学校の教育においてどのようなことに力を入れていけばよいか

高等学校の教育

- 問7 高等学校の教育の満足度について
- 問8 高等学校の教育においてどのようなことに力を入れていけばよいか

特別支援学校の教育

- 問9 特別支援学校の教育の満足度について
- 問10 特別支援学校の教育においてどのようなことに力を入れていけばよいか

教科指導やその他の活動の重点

- 問11 学校の教科指導や教育活動において今後、さらに力を入れて欲しいもの

学力向上に向けた取り組み

- 問12 学力向上のために学校に取り組んで欲しいこと

現在の教員に必要な資質

- 問13 望ましい教員像

キャリア教育

- 問14 キャリア教育の推進について、行政としてどのようなことに力を入れたらよいか

学校安全

- 問15 学校の安全についてどのようなことに力を入れていけばよいか

いじめ問題

問 16 いじめ問題に対して、行政としてどのようなことに力を入れていけばよいか

不登校対策

問 17 不登校対策について、行政としてどのようなことに力を入れていけばよいか

道徳教育

問 18 道徳教育を推進するに当たって、行政としてどのようなことに力をいれていけばよいか

特別支援教育

問 19 特別支援教育について、行政としてどのようなことに力を入れていけばよいか

食育

問 20 学校における食育について、どのようなことに力を入れていけばよいか

子供の教育(家庭・地域)について

家庭教育

問 21 家庭での教育が十分にできているか

問 22 家庭でのしつけや教育に関してどのようなことを心がけているか

問 23 家庭でのしつけや教育を充実させるために、行政としてどのようなことに力をいれていけばよいか

地域教育

問 24 地域における大人と子供の関わりについて

問 25 学校と家庭や地域社会が協力体制を推進するためにはどのようなことが必要か

生涯学習・スポーツ・文化芸術振興

生涯学習

問 26 今後、生涯学習をしてみたいと思うか

問 27 生涯学習を盛んにしていくためには、どのようなことが大切か

スポーツの振興

問 28 運動やスポーツへの取り組み状況

問 29 どのような条件が整えば、今まで以上に運動やスポーツをするのか

文化芸術の振興

問 30 自分を取り巻く文化芸術環境について、どのように感じているか

問 31 文化芸術の充実や振興において、行政としてどのようなことに力をいれていけばよいか

その他

子供の教育全般

問 32 自分の子供の教育について悩んでいること

問 33 子供たちの健全育成を図るためにどのようなことが必要か

問 34 これからの子供たちにとって必要とされる資質・能力は何か

期待する人づくり

問 35 これからの「やまなしの教育」にどのような人づくりを期待するか

自由意見

問 36 山梨の教育(スポーツ・文化を含む)に関する意見等

○ 調査の概要

1 調査の目的

県民の教育に対する満足度、当面する教育の課題に対する意向、教育行政に対する期待・要望など、教育に関する県民意識及びその変化を把握し、山梨県教育振興基本計画を策定するうえでの基礎資料とする。

2 調査内容

(1) 教育に関する主要な事項についての県民の満足度及び選好度

分野	調査内容
子供の教育 (学校教育等)	幼児期・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における教育の満足度、充実方策 キャリア教育、食育、学校安全、防災減災、いじめ問題、道徳教育、特別支援教育、学校教員
子供の教育 (家庭・地域教育)	家庭の教育力の向上方策、地域の教育力の現況、学校と家庭や地域社会の協力体制の推進方策、教育についての悩み、子供たちの健全育成、これからの子供たちに必要な資質
生涯学習	生涯学習への関心、生涯学習の充実方策
スポーツの振興	運動やスポーツへの取組、運動やスポーツの充実方策
文化芸術の振興	芸術文化環境、芸術文化の充実方策など
その他	山梨の教育に期待する人づくりのイメージ

3 調査仕様

調査地域	山梨県全域
調査対象者	A : 公立小・中学校、県立高校、特別支援学校の保護者 幼稚園・認定こども園・保育所の保護者 B : 県政モニター (20 歳以上県内在住者)
標本数	1 , 7 0 0 人
抽出方法	A : 1 , 3 0 0 人 県内の保育所・認定こども園・幼稚園、公立小・中学校、県立高等学校、特別支援学校及びその保護者を無作為に抽出 B : 4 0 0 人 県政モニター (20 歳以上県内在住者のうち県政モニター制度による者)
調査方法	A : 保育所・認定こども園・幼稚園、公立小・中学校、県立高校・特別支援学校については、各施設・学校を通じての調査依頼・回収 B : 郵送による配付・回収及びインターネットを利用した回答
標本抽出時期	A : 平成 3 0 年 2 月下旬 B : 平成 3 0 年 4 月上旬
調査期間	平成 3 0 年 3 月上旬 ~ 5 月中旬

4 回収結果

回収数 1,634人(回収率96.1%)

5 集計方法について

集計結果は百分率(%)で表示をした。

図表は小数点第2位を四捨五入した結果、合計数値が100%にならない場合がある。

有効な回答を得られなかった回答者は(不明)として示した。

回答比率は原則として回答者総数を100%として示している。

6 前回アンケート調査結果(平成25年3～5月実施)との比較(参考)について

本調査と平成25年3～5月実施のアンケート調査では、調査仕様、設問などについて、一部異なるところがあるが、参考までに比較を行っている。

なお、調査仕様の違いについては、調査仕様対比表を参照。

【調査仕様対比表】

	今回の調査	前回の調査(H25年度実施)
調査地域	山梨県全域	左に同じ
調査対象者	A:幼稚園・認定こども園・保育所、公立小・中学校、県立高等学校及び特別支援学校の保護者 B:県政モニター(20歳以上県内在住者)	A:保育所・幼稚園、公立小・中学校、県立高等学校及び特別支援学校の保護者 B:左に同じ
標本数	1,700人	左に同じ
抽出方法	A:1,300人 県内の保育所・認定こども園・幼稚園・公立小・中学校、県立高等学校、特別支援学校及びその保護者を無作為に抽出 B:400人 県政モニター(20歳以上県内在住者のうち県政モニター制度による者)	A:左に同じ B:左に同じ
調査方法	A:各保育所・認定こども園・幼稚園、公立小・中学校、県立高等学校、特別支援学校を通じて保護者に配付・回収 B:郵送による配付・回収、及びインターネットを利用した回答	A:左に同じ B:左に同じ
標本抽出時期	A:平成30年2月下旬 B:平成30年4月上旬	A:平成25年2月下旬 B:平成25年4月上旬
調査期間	平成30年3月上旬～5月中旬	平成25年3月上旬～5月中旬

○ 調査結果

○ 調査基本事項

	属性	回答者(人)	構成比率(%)
性別	全体	1634	100.0%
	男性	317	19.4%
	女性	1310	80.2%
	不明	7	0.4%
年齢	10歳代	23	1.4%
	20歳代	31	1.9%
	30歳代	368	22.5%
	40歳代	838	51.3%
	50歳代	226	13.8%
	60歳代以上	125	7.6%
	不明	23	1.4%
職業	自営業(農林水産業を含む)	138	8.4%
	会社員・団体職員	452	27.7%
	公務員	116	7.1%
	パート・アルバイト	606	37.1%
	学生	18	1.1%
	家事専業	190	11.6%
	無職	64	3.9%
	その他	37	2.3%
	不明	13	0.8%
居住地域	峡中地域	520	31.8%
	峡東地域	318	19.5%
	峡南地域	211	12.9%
	峡北地域	220	13.5%
	富士・東部地域	351	21.5%
	上記以外	7	0.4%
	不明	7	0.4%
子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	312	19.1%
	小学校に通う子どもがいる	785	48.0%
	中学校に通う子どもがいる	616	37.7%
	高等学校に通う子どもがいる	486	29.7%
	大学や専門学校に通う子どもがいる	192	11.8%
	特別支援学校に通う子どもがいる	101	6.2%
	1～6以外の子どもがいる	205	12.5%
	子どもはいない	123	7.5%
	不明	3	0.2%

○ 調査結果のまとめ

子供の教育（学校）について

（問 1、2）

- 幼児期の教育の満足度について、5年前と比べると「満足している」割合は、0.7 ポイント減っているが、「ほぼ満足している」まで合わせると 0.6 ポイント増加して、57.6%となっている。
- 幼児期の教育に望むことは、「遊びを中心としたさまざまな経験を積ませる」が過半数を超える回答であった。
- 次いで、「道徳心や社会性を育てる」ことを望む回答が多く、心の教育を望む声が多くなっている。

（問 3、4、5、6、7、8、11、12、13）

- 小学校の教育の満足度について、5年前と比べると「満足している」割合は、2.2 ポイント増え、「ほぼ満足している」まで合わせると 5.3 ポイント増加して 54.8%となっている。
- 中学校の教育の満足度について、5年前と比べると「満足している」割合は、1.7 ポイント増え、「ほぼ満足している」まで合わせると 4.3 ポイント増加して 36.2%となっている。
- 高等学校の教育の満足度について、5年前と比べると「満足している」割合は、1.7 ポイント増え、「ほぼ満足している」まで合わせると 0.3 ポイント増加して 29.9%となっている。
- どのようなことに力を入れていけばよいかとしては、小学校、中学校で「思考力・判断力・表現力・学びに向かう力」が多く、高等学校で「生徒の進路実現のための確かな学力を身に付ける」が多くなっている。
- 教科指導等において力を入れてほしい教育として、「討論、発表等の言語活動を効果的に取り入れた教育」、次いで「グローバル社会でコミュニケーション能力を高める外国語教育」が多くなっている。
- 小・中学校において、学力向上のために取り組んでほしいこととして「習熟度別少人数指導」、次いで「教員の指導方法の改善」が多くなっている。
- 望ましい教員像として、「子供によくわかる教え方をする教員」、次いで「子供の適性や能力を把握し、個性や特性を大切にする教員」が多くなっている。

(問 9、10、19)

- 特別支援学校の教育の満足度について、5年前と比べると「満足している」割合は、0.5ポイント増えたが、「ほぼ満足している」まで合わせると1.8ポイント減少して、17.0%となっている。
- 「満足している」と「ほぼ満足している」割合が5年前よりも減っているが、特別支援学校保護者のみの回答を見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた割合は、75%を超えている。
- どのようなことに力を入れていけばよいかとしては、「障害の状態や特性に応じた学習指導を充実させる」や「個性や特性を伸ばす」、「一人一人のニーズに応じた進路指導を充実させる」を望む回答が多く、一人一人の児童生徒に応じた支援を求めていることがうかがわれる。
- 特別支援教育において行政が力を入れていくこととして「発達段階や障害の状態に応じた指導や支援の充実」に次いで、「一人一人の教育ニーズに応じた就学指導の推進」が多くなっている。

(問 14)

- キャリア教育の推進について行政が力を入れることとして、「職業体験・インターンシップ等を充実させる」ことに力を入れるとする意見が多くなっている。
- キャリア教育は就業のための教育という観念が強いためか、職業体験・インターンシップ等の具体的な体験を重視する傾向があるのではないと思われる。

(問 15)

- 学校の安全について力を入れることとして、「災害時に取るべき行動を瞬時に判断する態度の育成」、次いで「子供への防犯・交通安全・防災に関する講話の実施」が多くなっている。
- 自分の命を自分で守るための子供の対応力の高まりを期待する気持ちが大いことがうかがえる。

(問 16)

- いじめ問題に対して行政が力を入れることとして、「児童生徒が安心して活躍できる授業づくりや集団づくり」に次いで「教職員が子供一人一人と正面から向き合える体制づくり」を望む声が多くなっている。

(問 17)

- 不登校対策について行政が力を入れることとして、「教育支援センターなどで学習活動ができる環境の充実」に次いで「学校へのスクールカウンセラー等の配置の拡充」を望む声が多くなっている。

(問 18)

- 道徳教育について行政が力を入れることとして、「奉仕活動や自然体験活動等の体験活動の機会を増やす」に次いで「子供たちに地域社会の行事への参加促進」を望む声が多くなっている。

(問 20)

- 学校における食育で力を入れてほしいこととして、「食物の生産や調理に関わる人々に感謝する心を育成する」次いで、「食の喜びや楽しさを理解させる」を望む声が多くなっている。

子供の教育（家庭・地域）について

(問 21、22、23)

- 家庭におけるしつけなどの教育について「十分できている」と「だいたいできている」とする割合は、54.7%と半数を超えている。
- しつけや家庭教育で心がけていることとして「子供が愛されていると実感できるコミュニケーション」次いで、「会話を増やし、家族との絆を深める」が多くなっている。
- しつけや家庭教育の充実のために行政が力を入れることとして「家庭教育に関する学習情報の提供」次いで、「相談体制の充実」が多くなっている。

(問 24、25)

- 地域での大人と子供の関わりについて、「以前より少なくなっている」あるいは「ほとんどなくなっている」と感じている人の割合は、5年前と比べ増加しており、改善傾向はみられない。
- 学校、家庭及び地域の協力体制の推進のために必要なこととして「学校と地域が連携した放課後の子供の居場所づくり」に次いで、「学校の情報を学校、学級通信、PTAだよりなどで公開」が多くなっている。

生涯学習・スポーツ・芸術文化振興について

(問26、27)

- 生涯学習に対しては、「既にしている」や「今後してみたいと思う」など、前向きな意見が5年前と比べ減り、生涯学習に対する関心の低下がうかがえる。
- 生涯学習を盛んにしていくためには、施設の充実や住民の希望に合う講座などの充実を望む意見が多くなっている。

(問28、29)

- 運動やスポーツへの取組状況は、「満足している」や「充実したい」など、前向きな意見は5年前と比べると3.3ポイント増加した。
- 運動やスポーツをするための条件としては、施設の充実や休暇(自由時間)の増加などを望む声が多くなっている。

(問30、31)

- 芸術文化環境については、「満足している」や「ほぼ満足している」と回答した割合は20%未満であった。
- 芸術文化の振興のために行政として力を入れてほしいこととして、「芸術文化の鑑賞の機会の充実」を望む回答が多くなっている。

その他

(問32)

- 子供の教育について悩んでいることは、「将来の進路に関すること」が50%に迫り、次いで「教育費の負担」、「勉強に関すること」と、進学に関連した回答が多くなっている。

(問33)

- 子供たちの健全育成を図るために必要なこととして、「仲間づくりや人間関係づくり」が70%、次いで「基本的生活習慣や集団のきまりを身につけさせること」が多くなっている。

(問34)

- 子供たちにとり必要な資質・能力は、「自分の考えを的確に相手に伝える力」に続き、「自ら考え行動する力」が多くなっている。

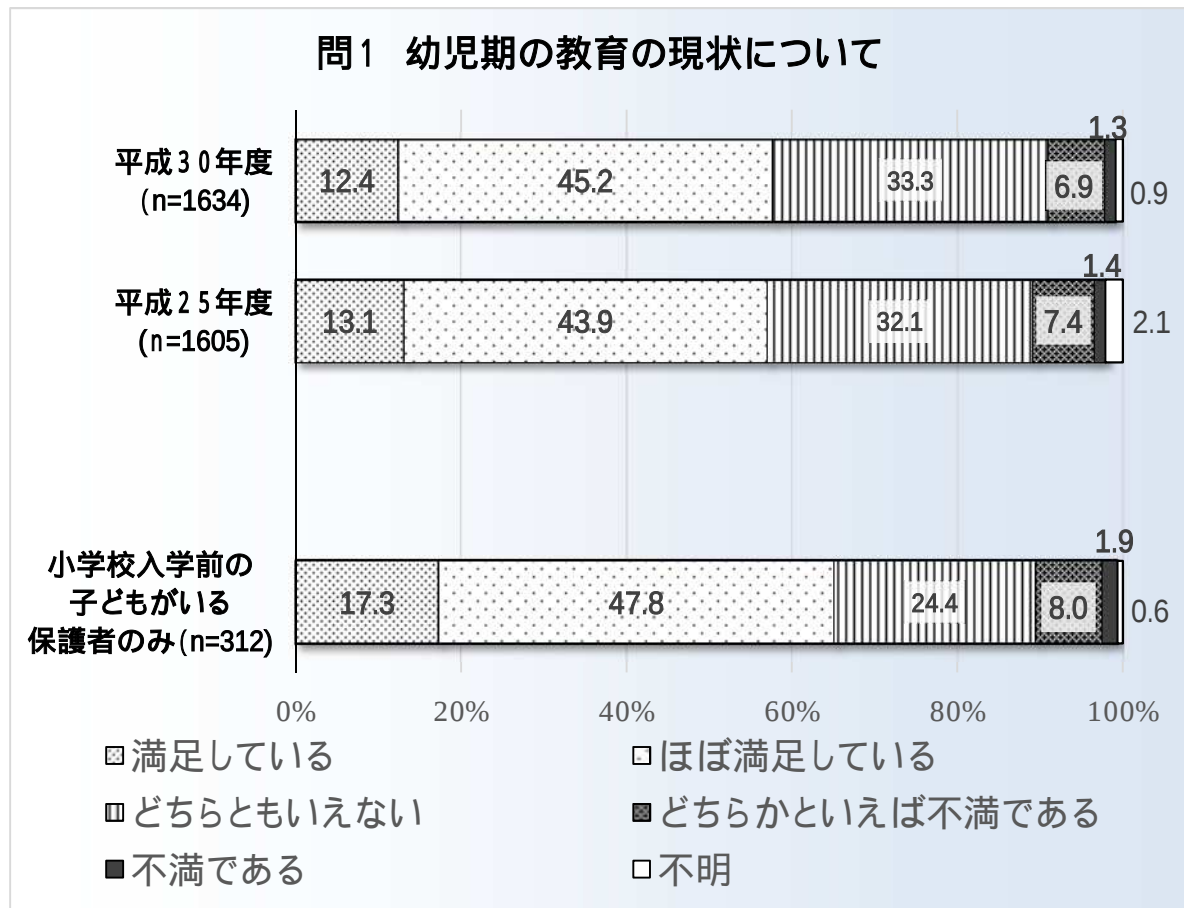
(問35)

- これからの「やまなしの教育」に、どのような人づくりを期待するかについては、「人を思いやる心を持っている」に続き、「自ら学び考え、行動する」が多くなっている。

子供の教育(学校)について

幼児期の教育

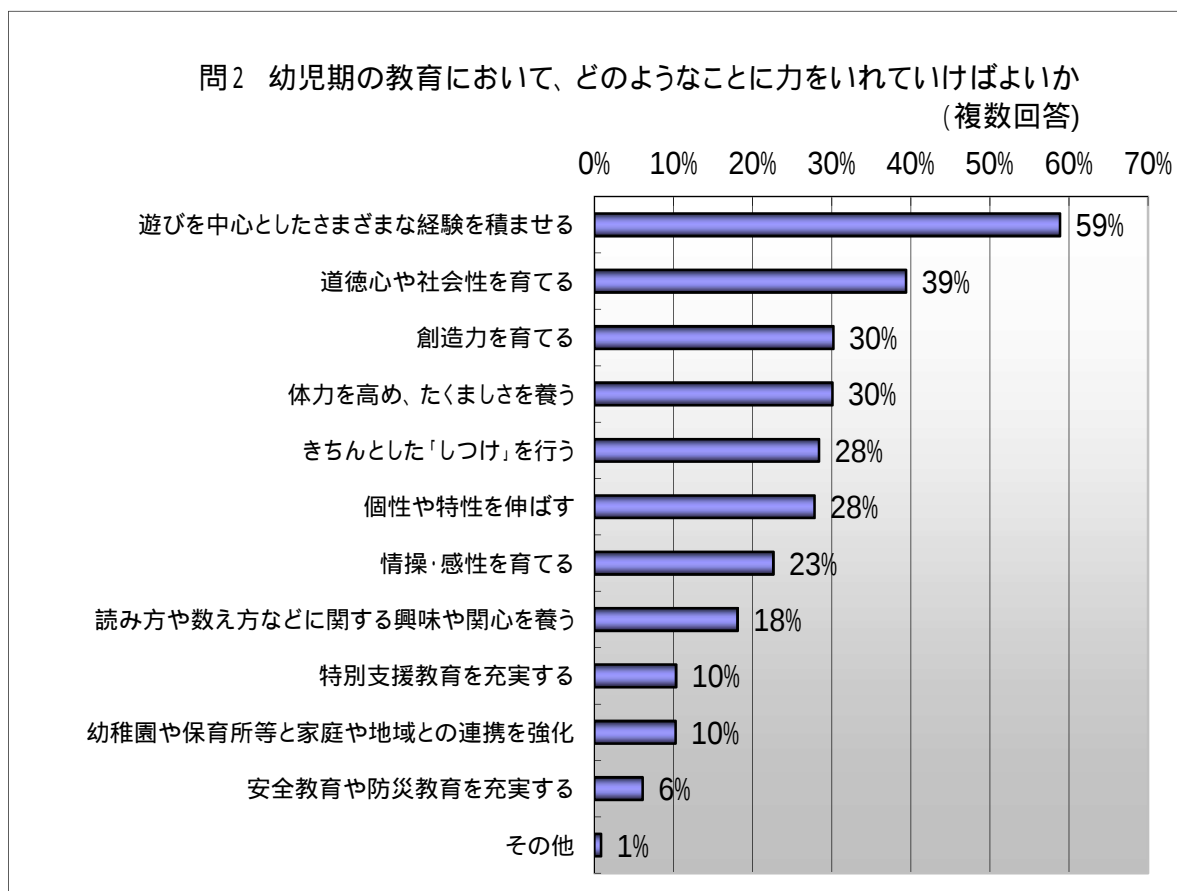
問1 幼児期の教育の現状について



	小学校入学前の子どもがいる保護者のみ (n=312)	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
満足している	17.3	13.1	12.4
ほぼ満足している	47.8	43.9	45.2
どちらともいえない	24.4	32.1	33.3
どちらかといえば不満である	8.0	7.4	6.9
不満である	1.9	1.4	1.3
不明	0.6	2.1	0.9

問2 幼児期の教育においてこれからどのようなことに力を入れていけばよいか

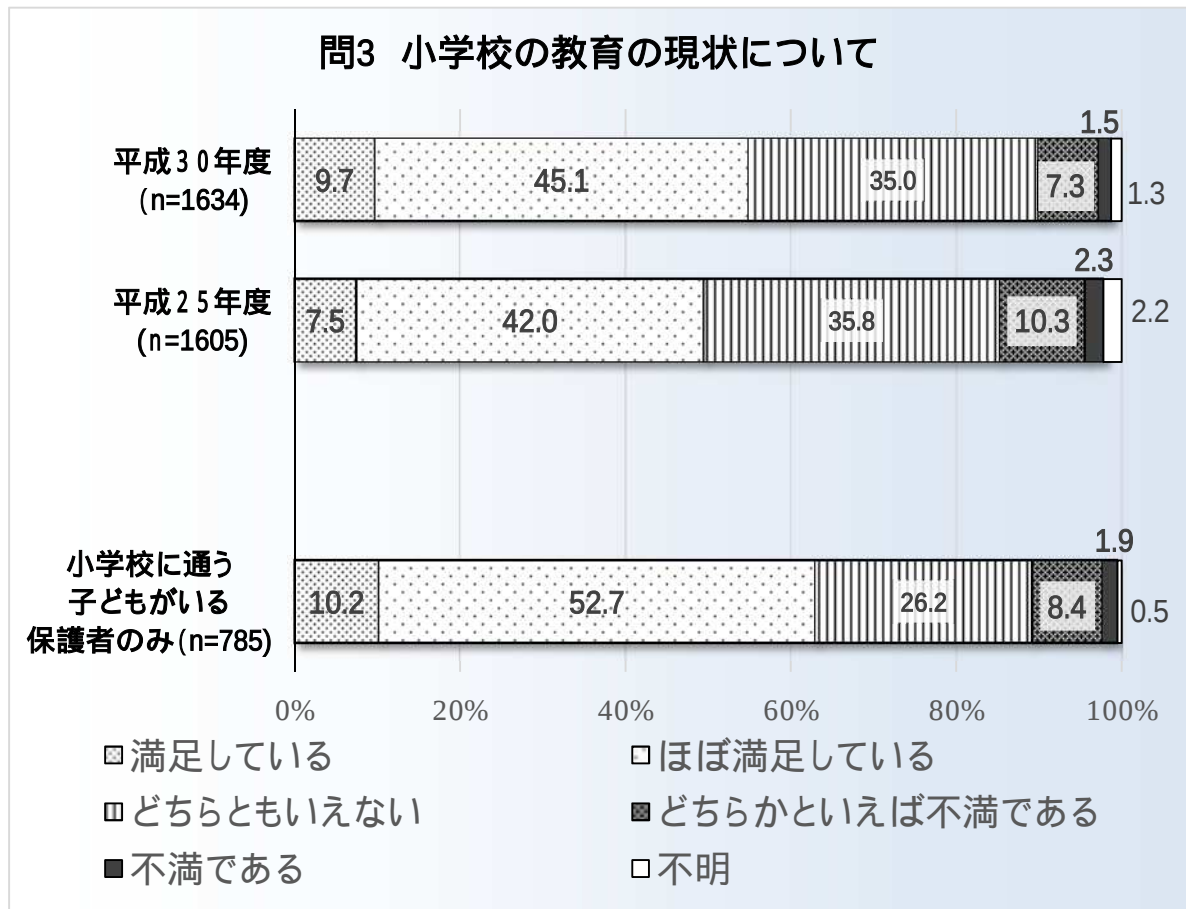
回答者総数:1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「就学前の子供達に平等な教育を受けさせる」、「子育てで大切なことを親自身が学ぶ」、「簡単な英語・自然を知る教育（環境）」などであった。

小学校の教育

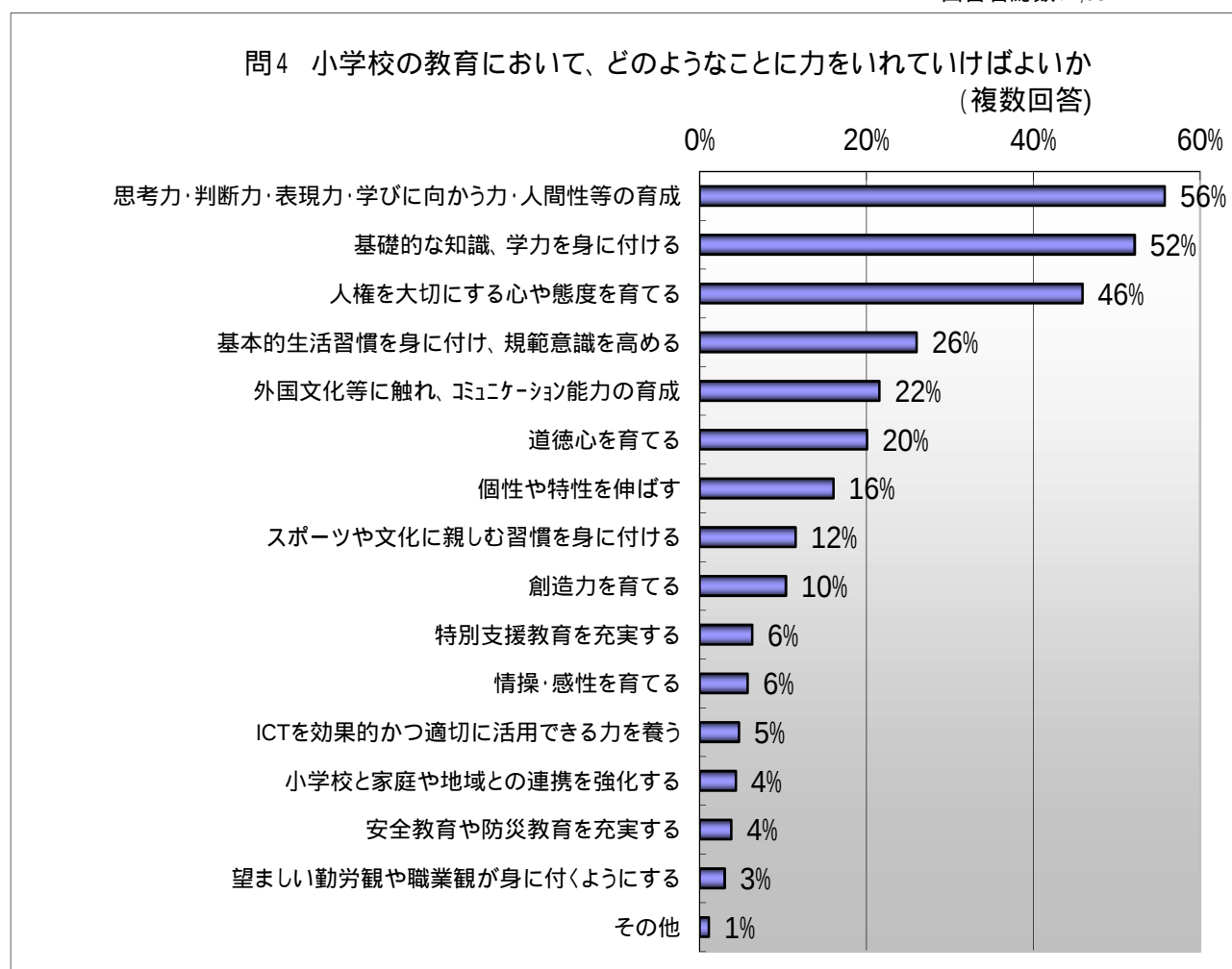
問3 小学校の教育の現状について



	小学校に通う 子どもがいる 保護者のみ (n=785)	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
満足している	10.2	7.5	9.7
ほぼ満足している	52.7	42.0	45.1
どちらともいえない	26.2	35.8	35.0
どちらかといえば不満である	8.4	10.3	7.3
不満である	1.9	2.3	1.5
不明	0.5	2.2	1.3

問4 小学校の教育において、これからどのようなことに力を入れていけばよいか。

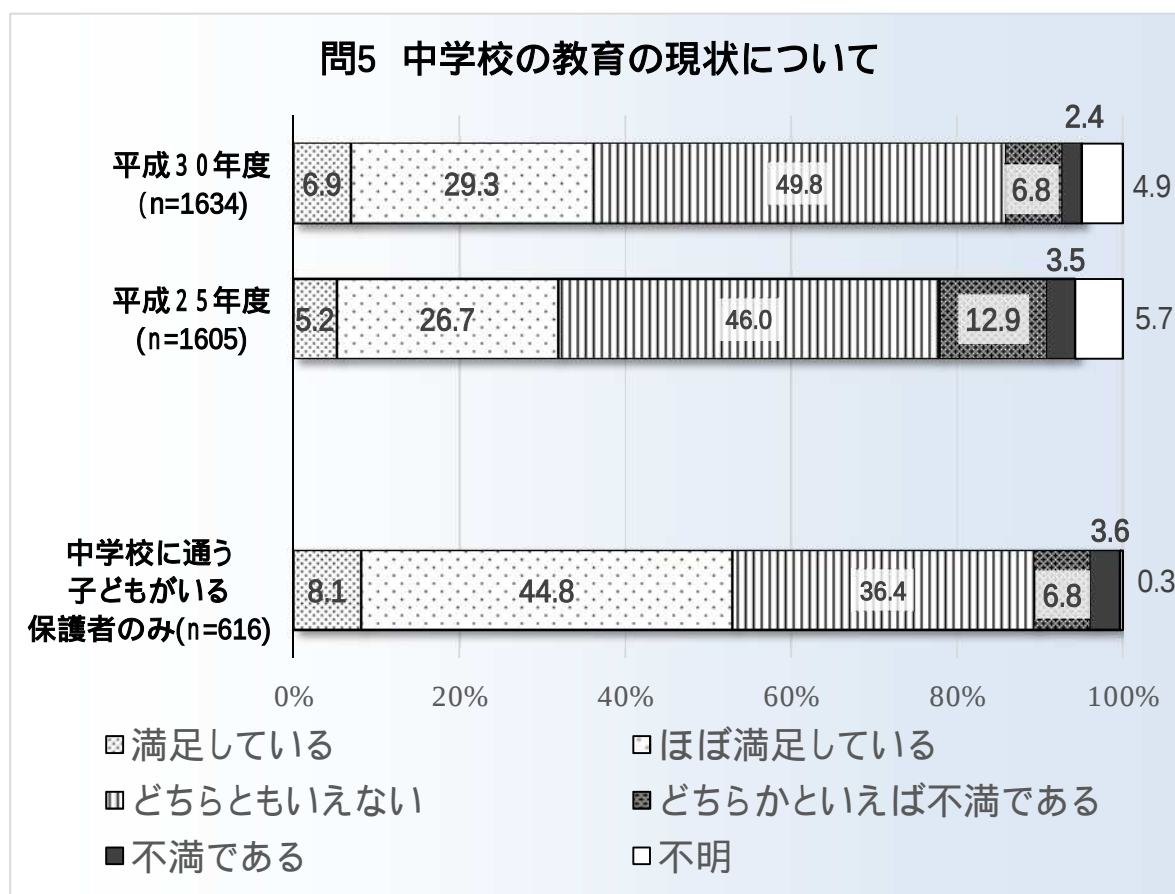
回答者総数:1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「日本の文化を知り、言葉や心の大切さを養う」、「英語」、「自分と他者との違いを認め合い、互いを受け入れる教育」、「教員の質を上げる」、「小学3年から35人学級にせず、少人数制でやるべき」などであった。

中学校の教育

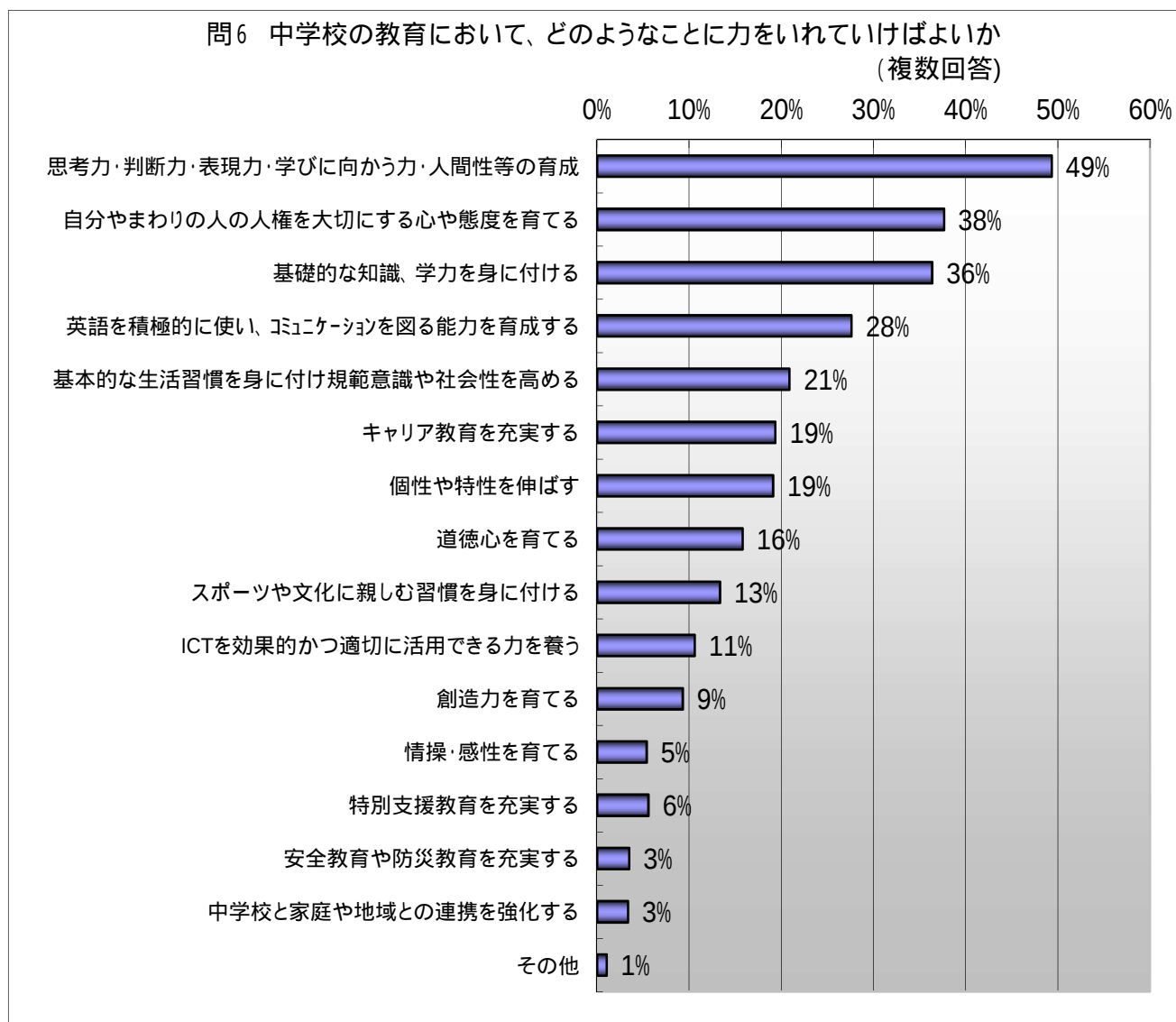
問5 中学校の教育の現状について



	中学校に通う 子どもがいる 保護者のみ(n=616)	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
満足している	8.1	5.2	6.9
ほぼ満足している	44.8	26.7	29.3
どちらともいえない	36.4	46.0	49.8
どちらかといえば不満である	6.8	12.9	6.8
不満である	3.6	3.5	2.4
不明	0.3	5.7	4.9

問6 中学校の教育において、これからどのようなことに力を入れていけばよいか。

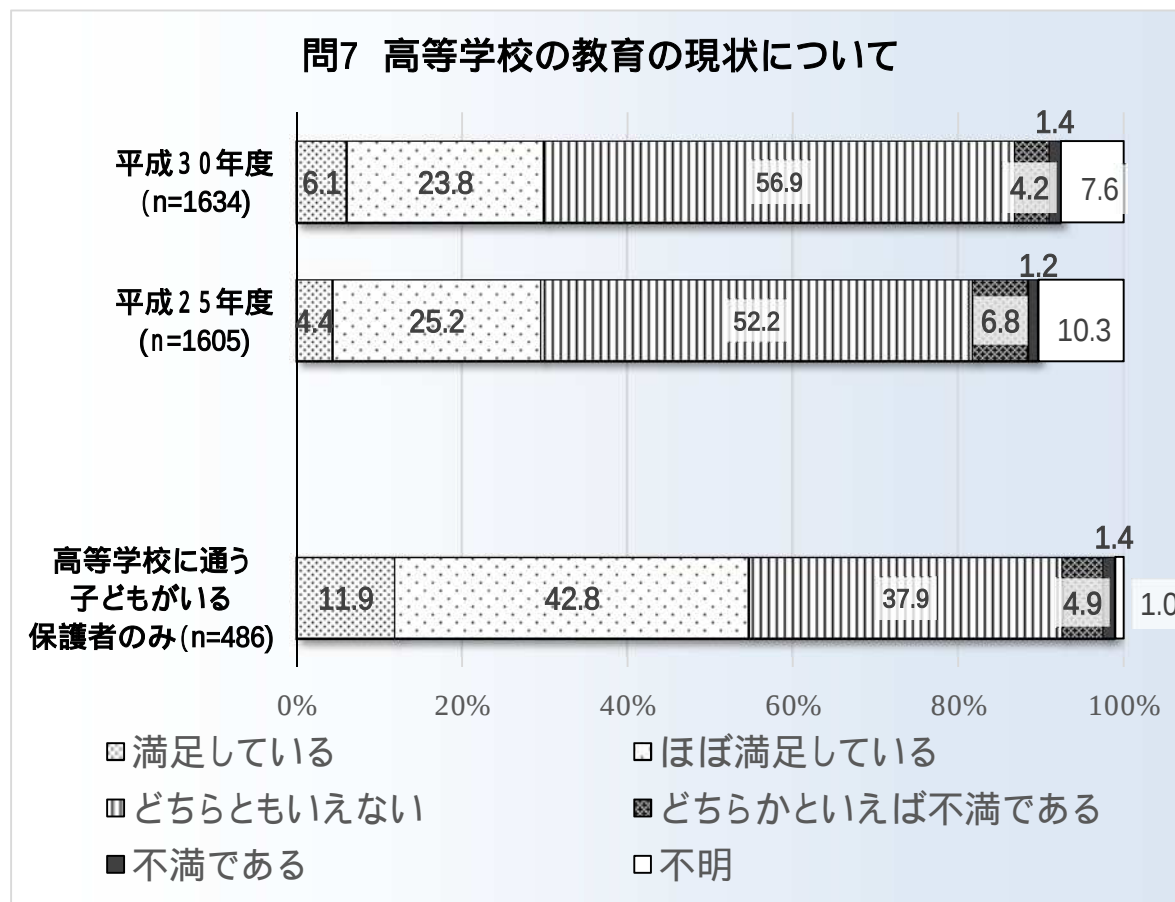
回答者総数：1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「授業の習得度合いによりクラス編成を取り入れる」、「自立心を育てる」、「宿題を一方向的に与えるスタイルを止める」、「教育者のレベル向上」などであった。

高等学校の教育

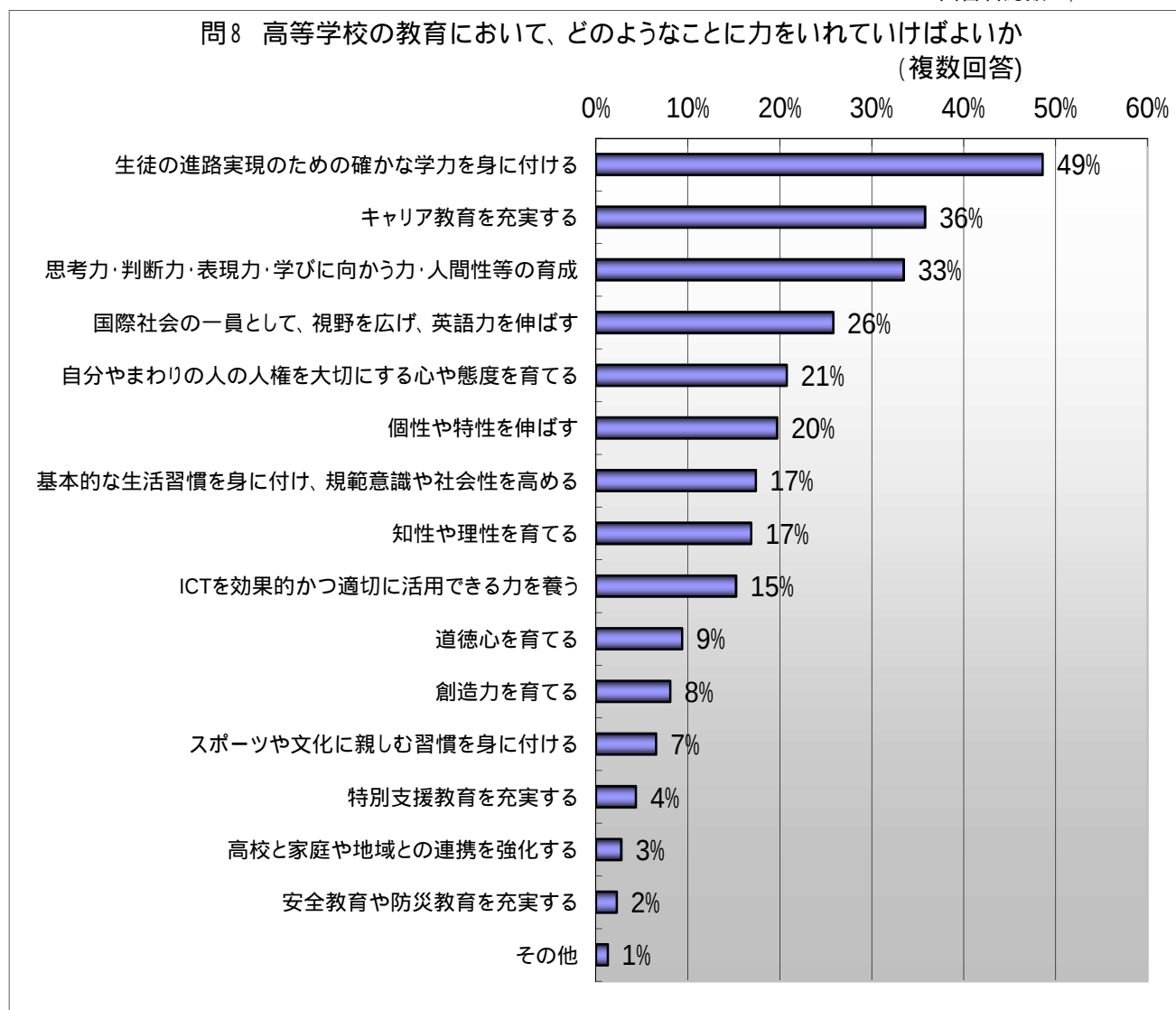
問7 高等学校の教育の現状について



	高等学校に通う 子どもがいる 保護者のみ (n=486)	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
満足している	11.9	4.4	6.1
ほぼ満足している	42.8	25.2	23.8
どちらともいえない	37.9	52.2	56.9
どちらかといえば不満である	4.9	6.8	4.2
不満である	1.4	1.2	1.4
不明	1.0	10.3	7.6

問8 高等学校の教育において、これからどのようなことに力を入れていけばよいか。

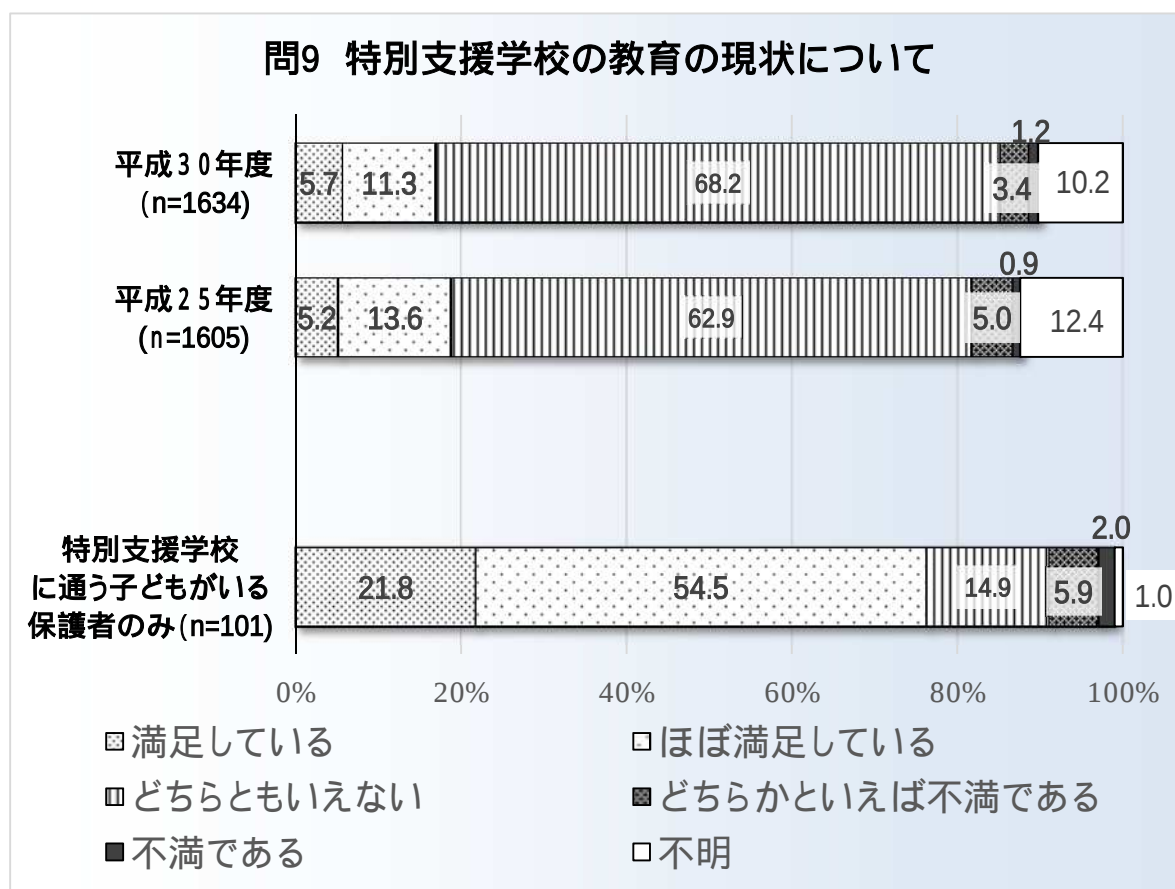
回答者総数: 1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「学力の習熟度によりクラス編成を取り入れる」、「社会一般常識及び上の人に対する言葉づかい」、「部活の顧問を専門の先生にする」、「キャリア教育」などであった。

特別支援学校の教育

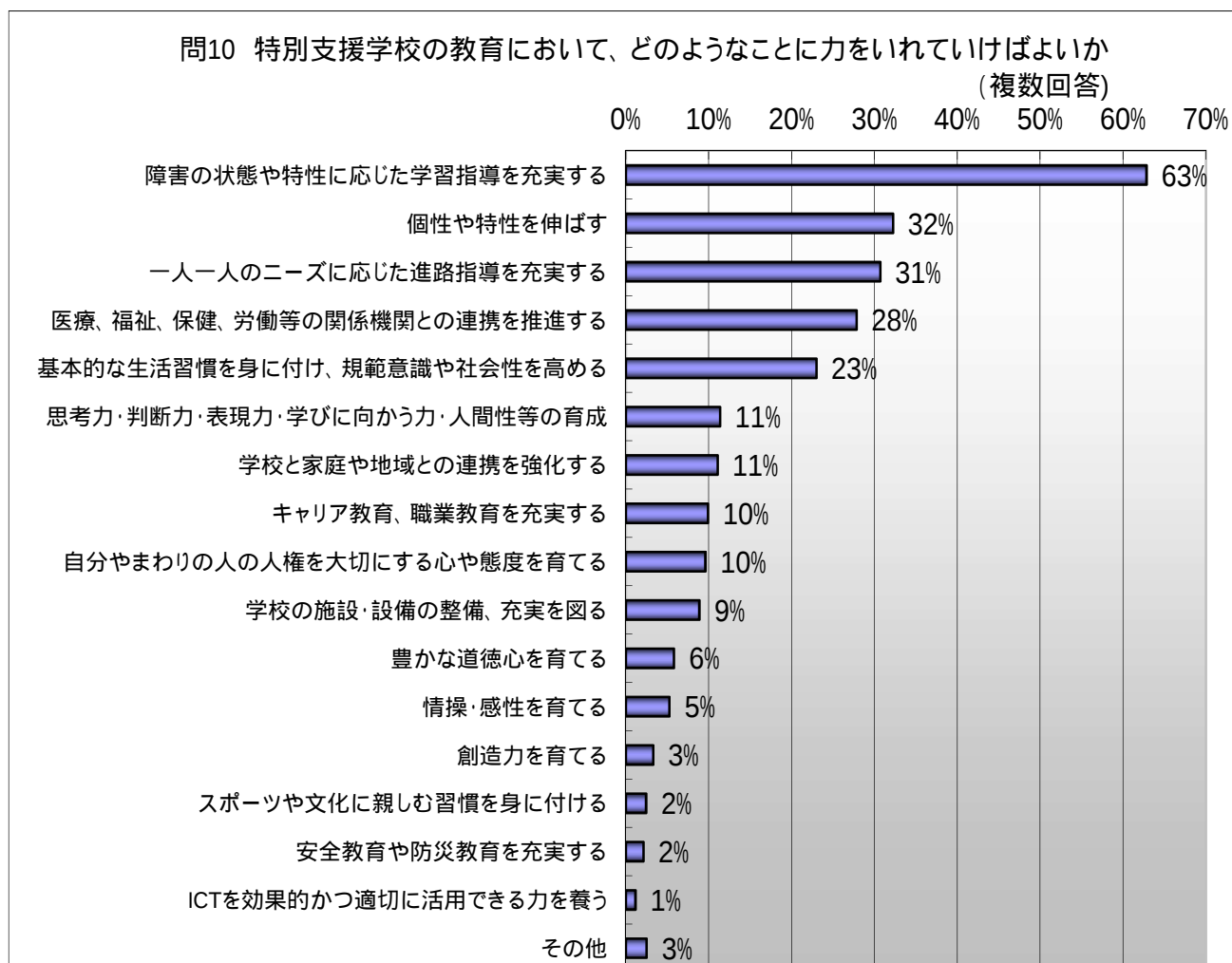
問9 特別支援学校の教育の現状について



	特別支援学校 に通う子どもがいる 保護者のみ (n=101)	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
満足している	21.8	5.2	5.7
ほぼ満足している	54.5	13.6	11.3
どちらともいえない	14.9	62.9	68.2
どちらかといえば不満である	5.9	5.0	3.4
不満である	2.0	0.9	1.2
不明	1.0	12.4	10.2

問10 特別支援学校の教育において、これからどのようなことに力を入れていけばよいか

回答者総数:1,634

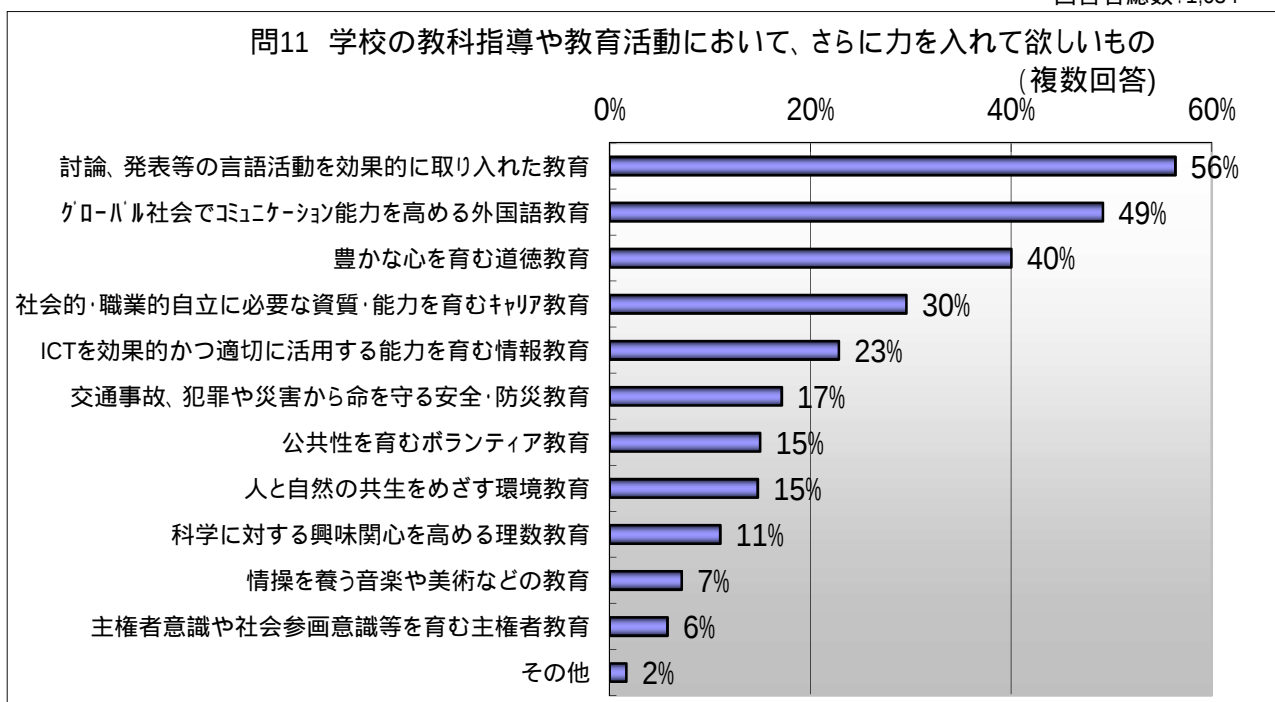


「その他」の記述回答で主なものは、「親の付き添いを減らせる人員配置」、「指導される先生方の障害に対する知識、指導力の向上」、「もっと世間にアピールして欲しい」などであった。

教科指導やその他の活動の重点

問11 学校の教科指導や教育活動において今後、さらに力を入れて欲しいもの

回答者総数: 1,634

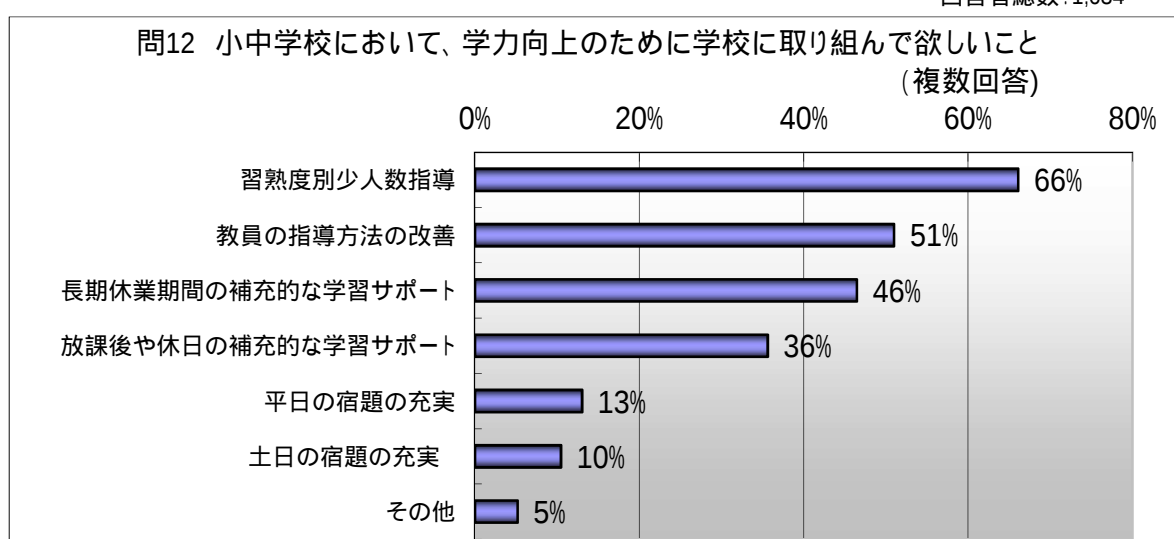


「その他」の記述回答で主なものは、「自己と他者を認め合う教育」、「主体的に学ぶ意欲を育む教育」、「薬物乱用、若年妊娠、いじめ、暴力行為などの心身に伴う健康教育」などであった。

学力向上に向けた取り組み

問12 小・中学校において、学力向上のために学校に取り組んでほしいこと

回答者総数: 1,634



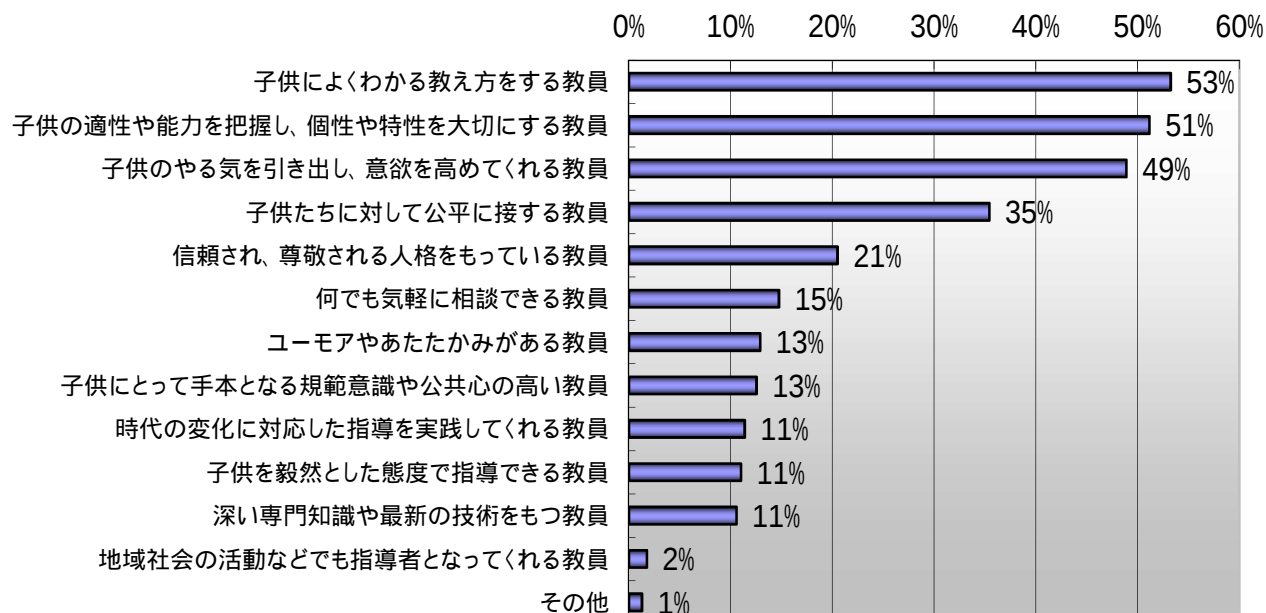
「その他」の記述回答で主なものは、「部活動との両立をサポート」、「学校行事の精選と教科教育活動の充実、確保」、「個に応じた課題設定」、「宿題が多すぎる」などであった。

現在の教員に必要な資質

問 13 望ましい教員像

回答者総数:1,634

問13 あなたが望ましいと思うのは、どんな教員か (複数回答)



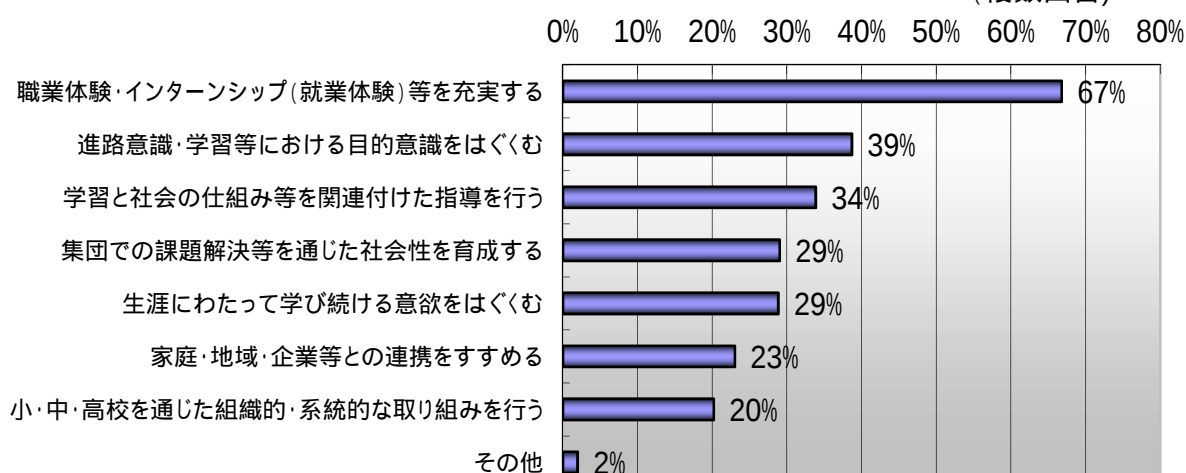
「その他」の記述回答で主なものは、「教員自身が疲れていなくて生き生きしている」「子供が好きな教員」、「教員と生徒と言うより、人と人と言う考え方」などであった。

キャリア教育

問 14 キャリア教育の推進について、行政としてどのようなことに力を入れたらよいか

回答者総数:1,634

問14 キャリア教育の推進について、どのようなことに力を入れていけばよいか (複数回答)



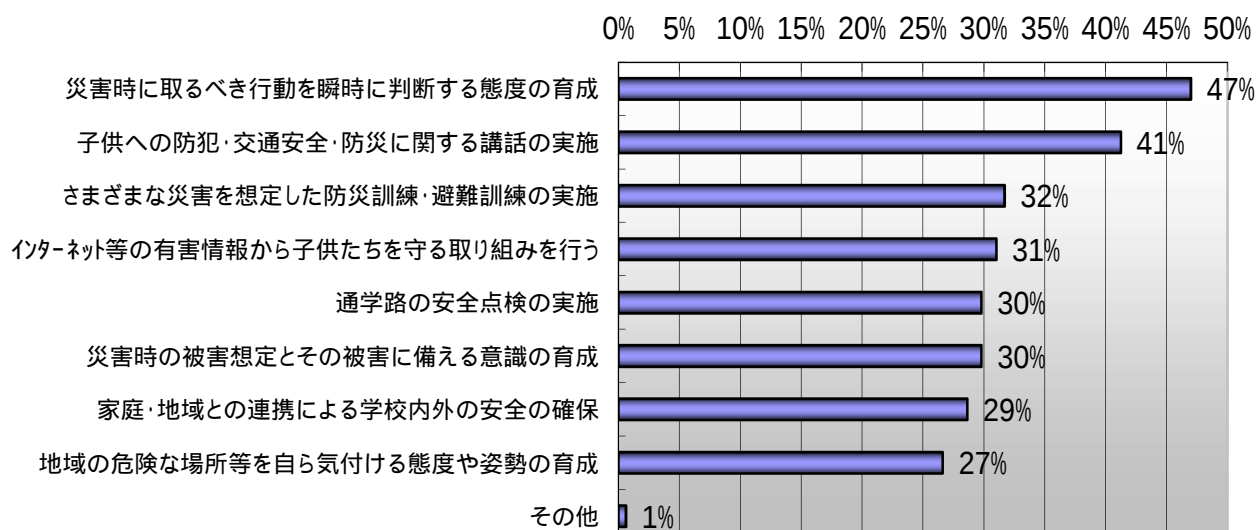
「その他」の記述回答で主なものは、「職業を知り、そのために必要な道のを早いうちに知る教育」、「個性を出せる行事などが必要」、「子供の進路希望に沿った指導」などであった。

学校安全

問15 学校の安全(生活安全・交通安全・災害安全)についてどのようなことに力を入れていけばよいか

回答者総数:1,634

問15 学校の安全について、どのようなことに力を入れていけばよいか
(複数回答)



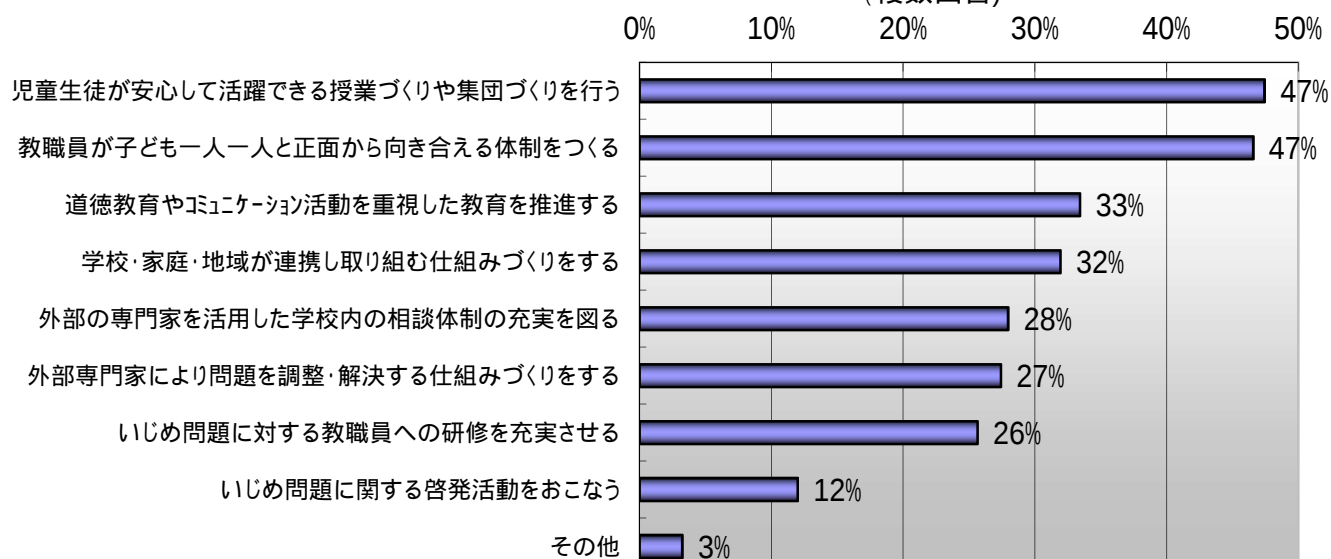
「その他」の記述回答で主なものは、「警察と学校、家庭の情報の共有」、「交通量の多く通学路にガードレールの設置」、「小・中・高共通して、自転車の交通ルール指導」などであった。

いじめ問題

問16 いじめ問題に対して、行政としてどのようなことに力を入れていけばよいか

回答者総数:1,634

問16 いじめ問題について、どのようなことに力を入れたらよいか
(複数回答)

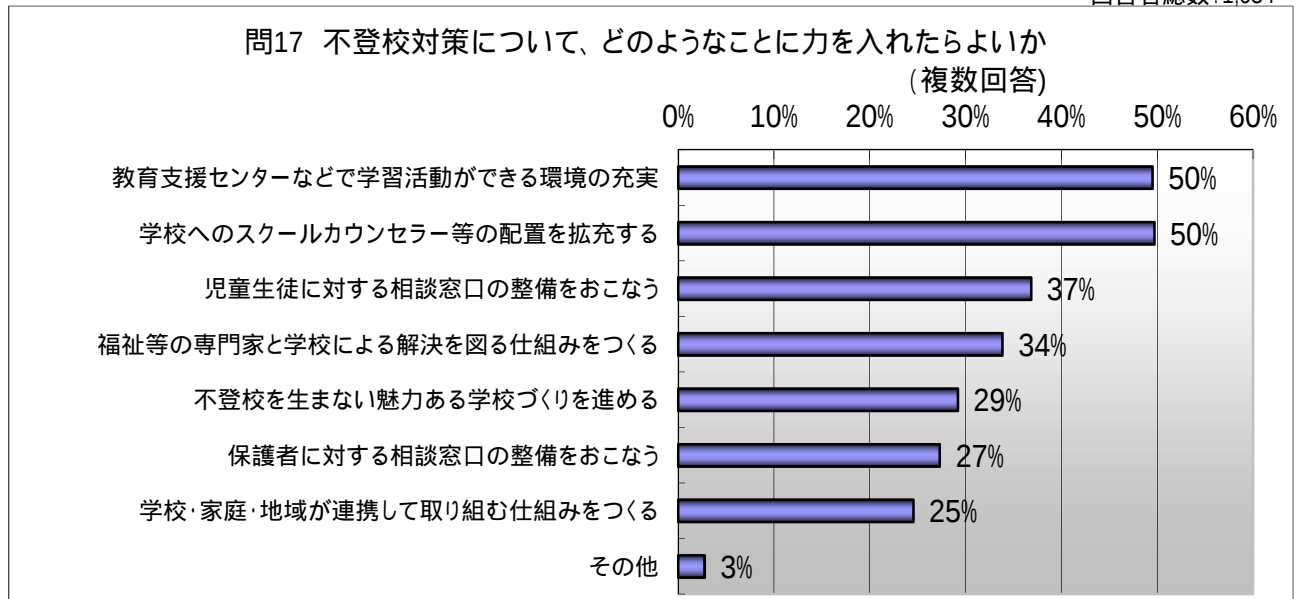


「その他」の記述回答で主なものは、「学校、家庭以外にも子供の居場所を作る」、「教職員、子供達への啓発だけではなく、保護者にむけた勉強会のようなものが必要」などであった。

不登校対策

問 17 不登校対策について、行政としてどのようなことに力を入れていけばよいか

回答者総数:1,634

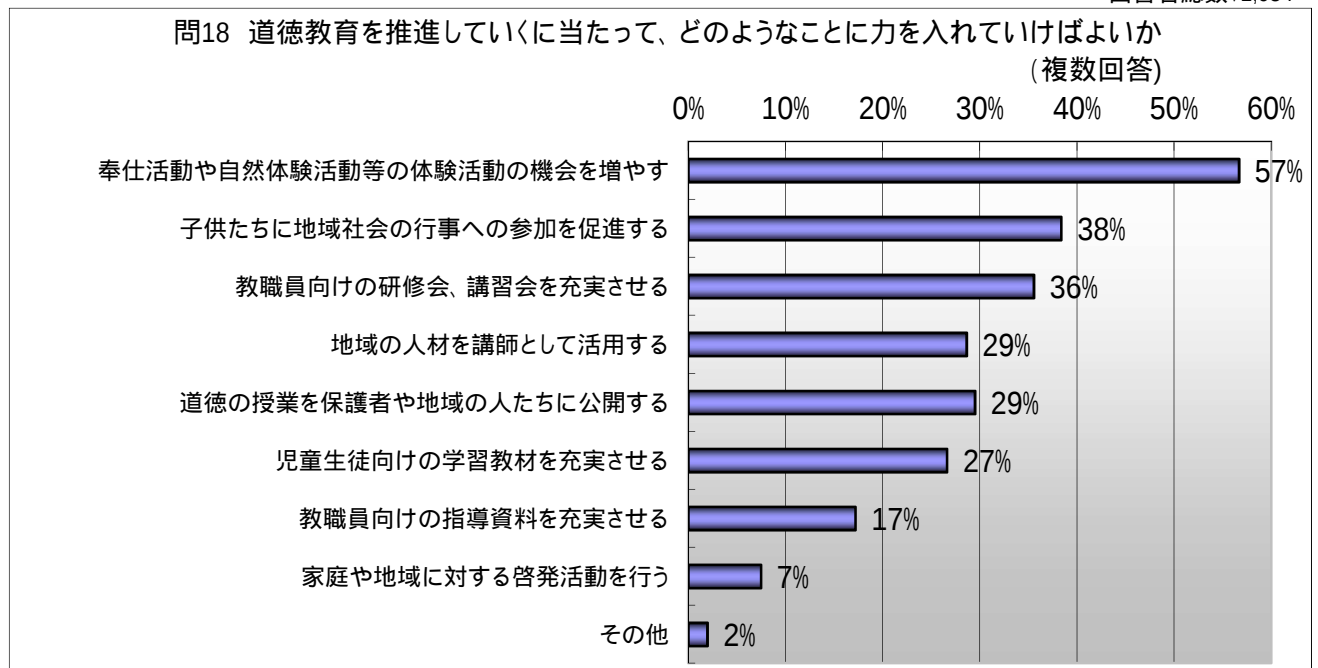


「その他」の記述回答で主なものは、「学校内に教育支援的教室の充実を図る」、「保護者への子育てサポート」などであった。

道徳教育

問 18 道徳教育を推進していくに当たって、行政としてどのようなことに力を入れたらよいか

回答者総数:1,634

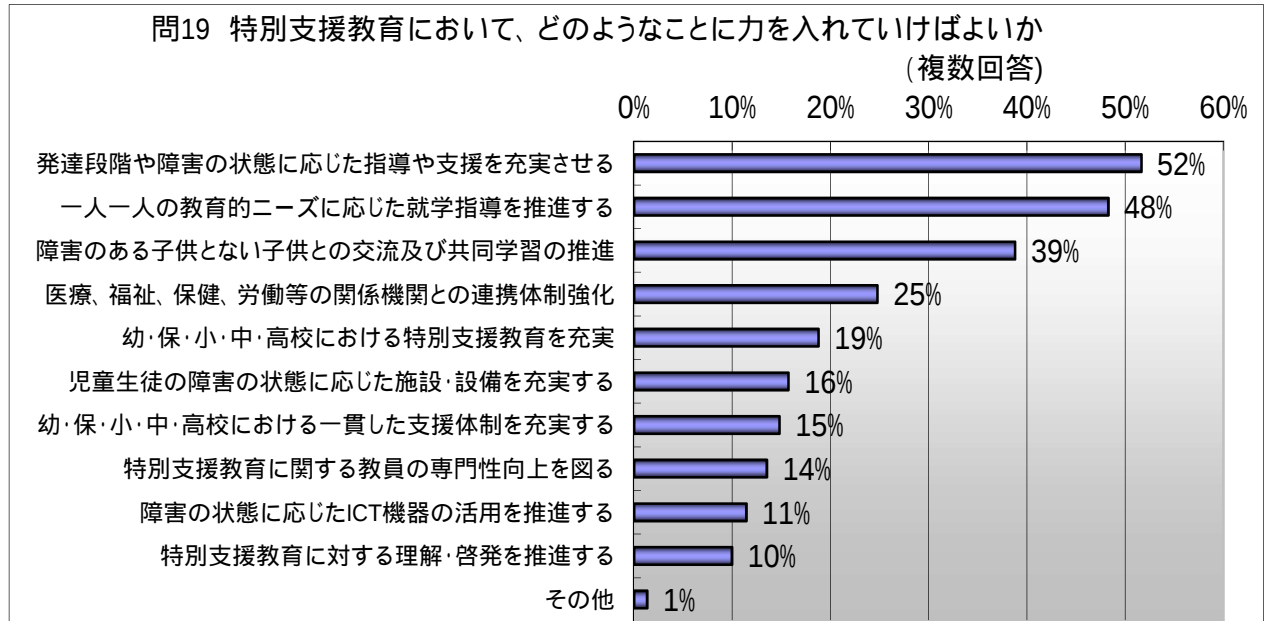


「その他」の記述回答で主なものは、「専門家を講師として活用する」、「自分の意志ばかりを押し付けず、子供の意見を聞ける教師を育てること」、「道徳授業を評価対象から外す」などであった。

特別支援教育

問 19 特別支援教育において、行政としてどのようなことに力を入れていけばよいか

回答者総数：1,634

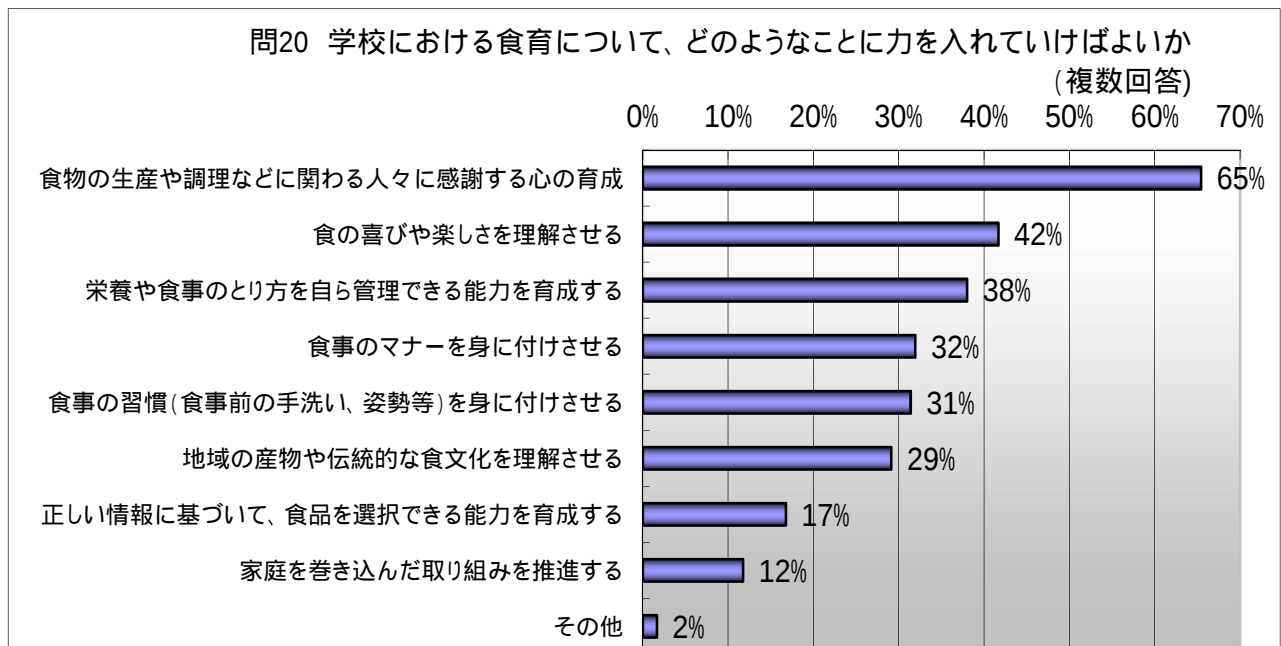


「その他」の記述回答で主なものは、「保護者のケアを行政やその他サービスと関連して行う」、「家庭・地域・学校の連携」などであった。

食育

問 20 学校における食育について、どのようなことに力を入れていけばよいか

回答者総数：1,634

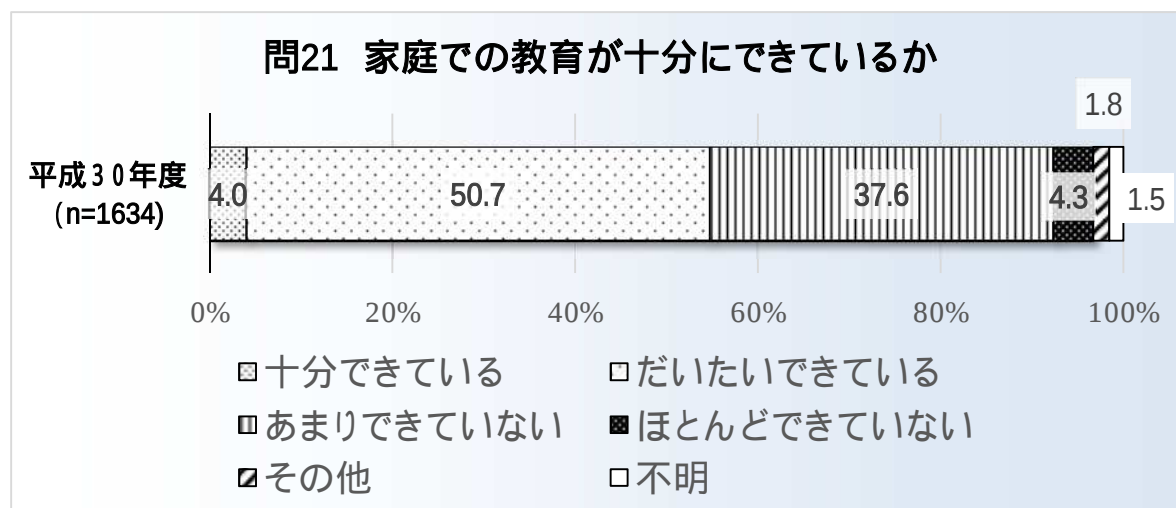


「その他」の記述回答で主なものは、「食物廃棄について理解させる」、「食品(農産物、加工品等)をとりまく危険性(放射能、遺伝子組み換え、添加物等)を学習する」などであった。

子供の教育（家庭・地域）について

家庭教育

問 21 家庭での教育が十分にできているか

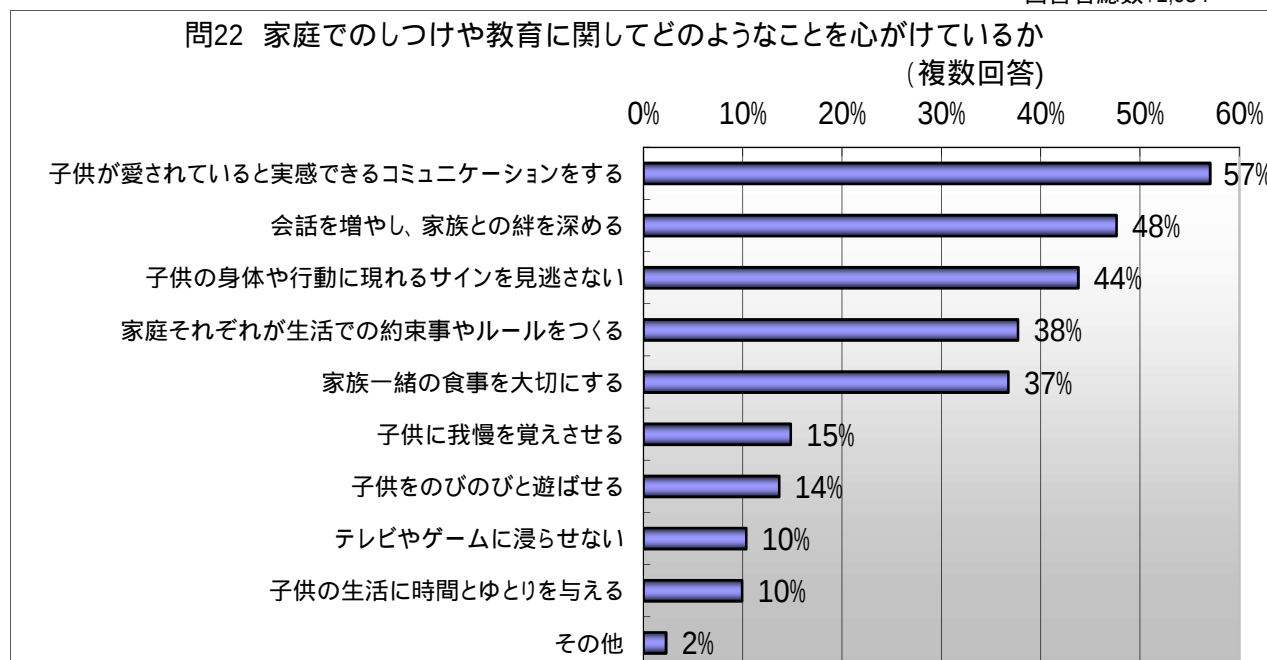


「その他」の記述回答で主なものは、「わからない」「格差がある」などであった。

	%
	平成30年度 (n=1634)
十分できている	4.0
だいたいできている	50.7
あまりできていない	37.6
ほとんどできていない	4.3
その他	1.8
不明	1.5

問 22 家庭でのしつけや教育に関してどのようなことを心がけているか

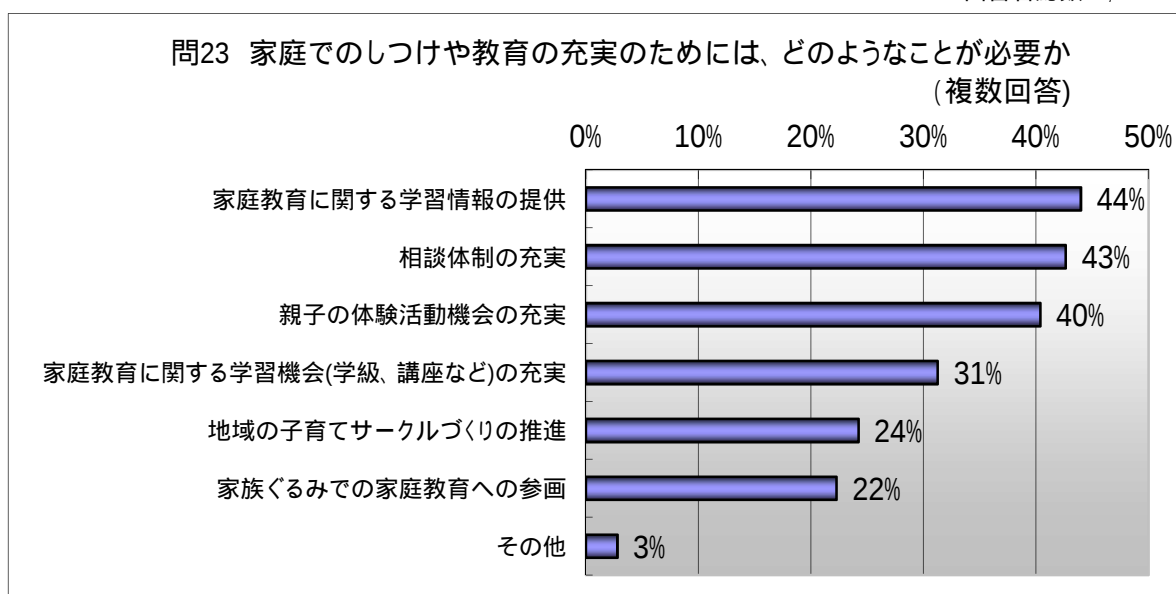
回答者総数: 1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「すぐに相談できる家族関係」「自主性を大切にする」「叱る時はしっかりと叱る」などであった。

問 23 家庭でのしつけや教育の充実を充実するために、行政としてどのようなことに力を入れていけばよいか

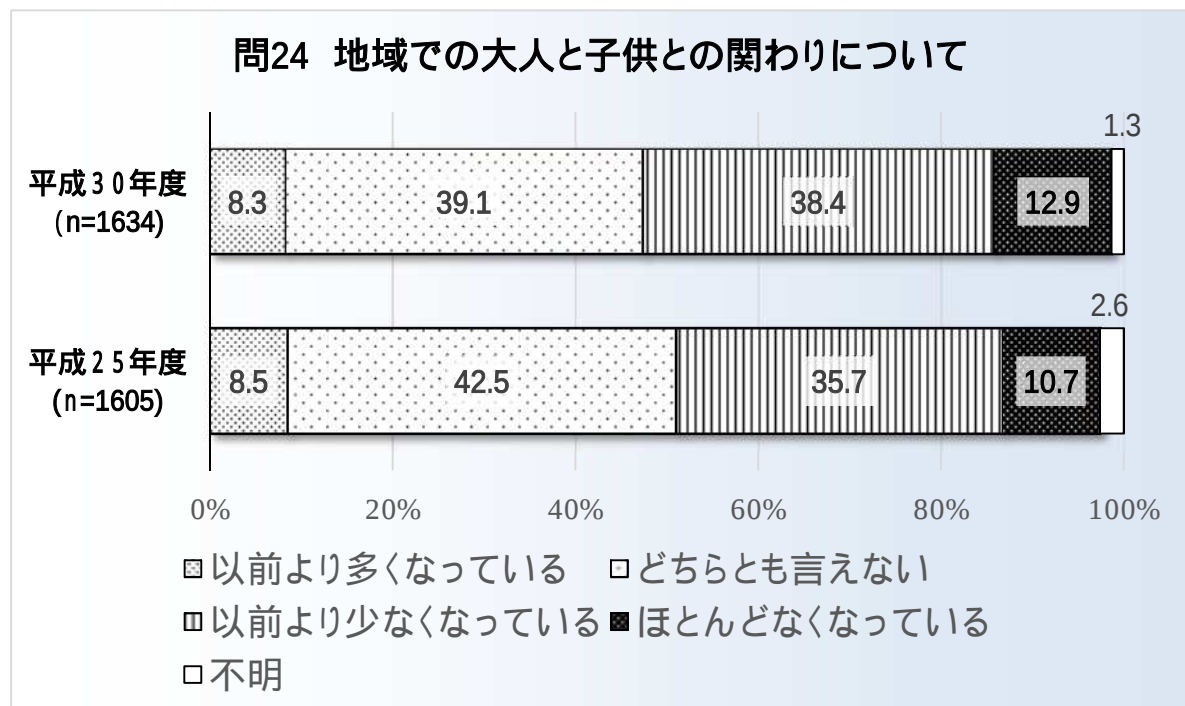
回答者総数: 1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「家庭教育の重要性に関する啓発活動」「子供達だけの集まる場、遊ぶ場を充実」「経済的支援」などであった。

地域教育

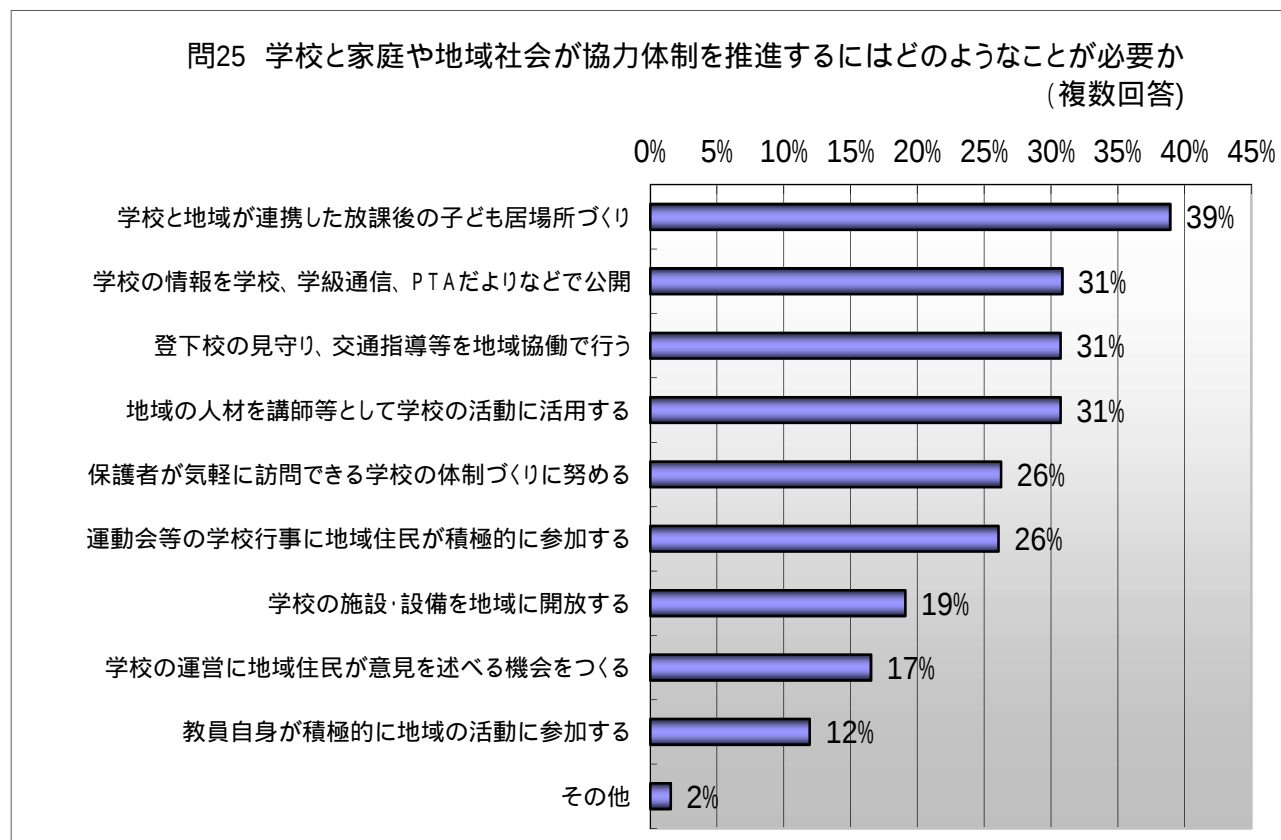
問 24 地域での大人と子供の関わりについて



	%	
	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
以前より多くなっている	8.5	8.3
どちらとも言えない	42.5	39.1
以前より少なくなっている	35.7	38.4
ほとんどなくなっている	10.7	12.9
不明	2.6	1.3

問 25 学校と家庭や地域社会が協力体制を推進するためにはどのようなことが必要か

回答者総数:1,634

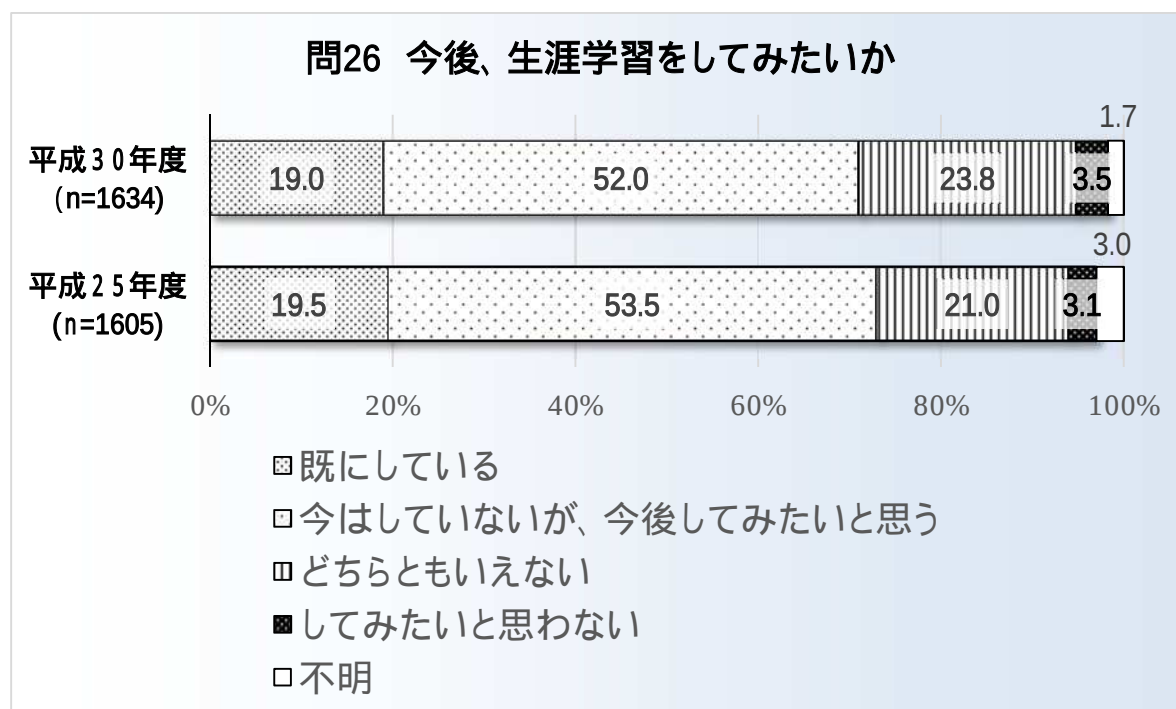


「その他」の記述回答で主なものは、「誰でも気軽に行ける居場所作り」「地域のシニア層が指導者となる放課後子供教室の開設」「地域、保護者をまきこむような学校行事の工夫」などであった。

生涯学習・スポーツ・文化芸術振興 について

生涯学習

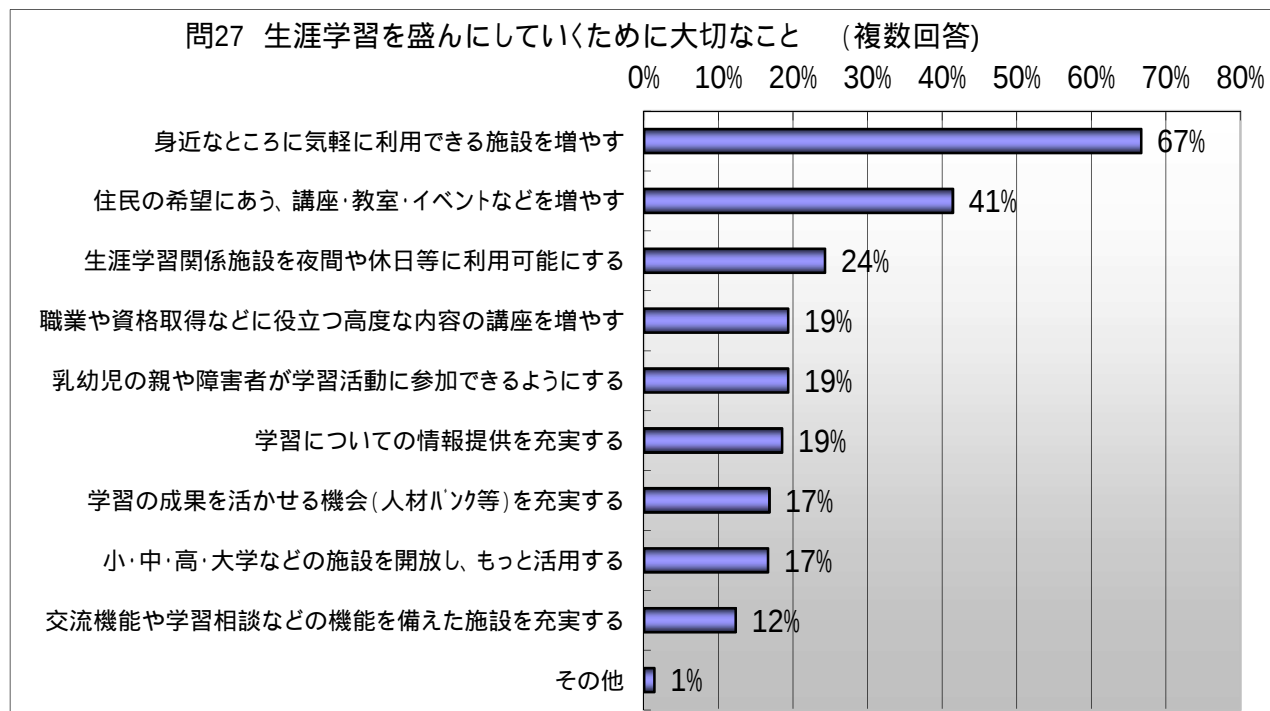
問 26 今後、「生涯学習」をしてみたいと思うか



	%	
	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
既にしている	19.5	19.0
今はしていないが、今後してみたいと思う	53.5	52.0
どちらともいえない	21.0	23.8
してみたいと思わない	3.1	3.5
不明	3.0	1.7

問27 生涯学習をもっと盛んにしていくためには、どのようなことが大切か

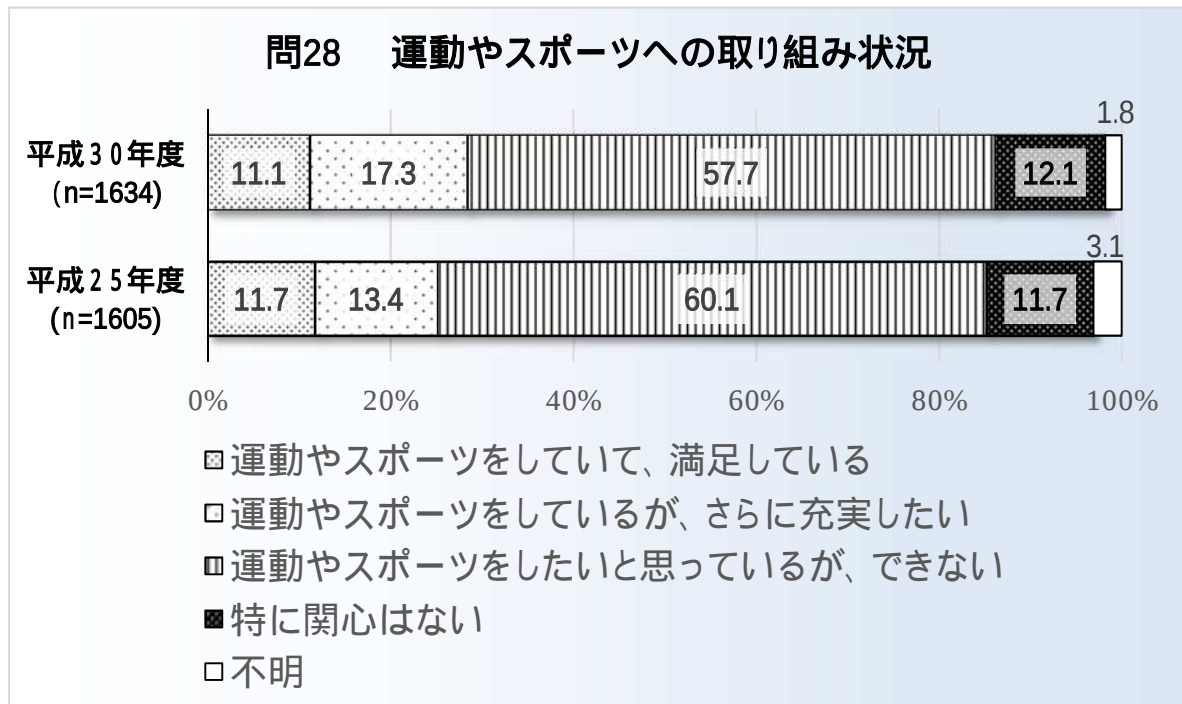
回答者総数:1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「就業・子育て以外の時間的ゆとりを生み出す」、「指導者の育成」、「既に地域で活動している人たちの活動を支援する」などであった。

スポーツの振興

問 28 運動やスポーツへの取り組み状況

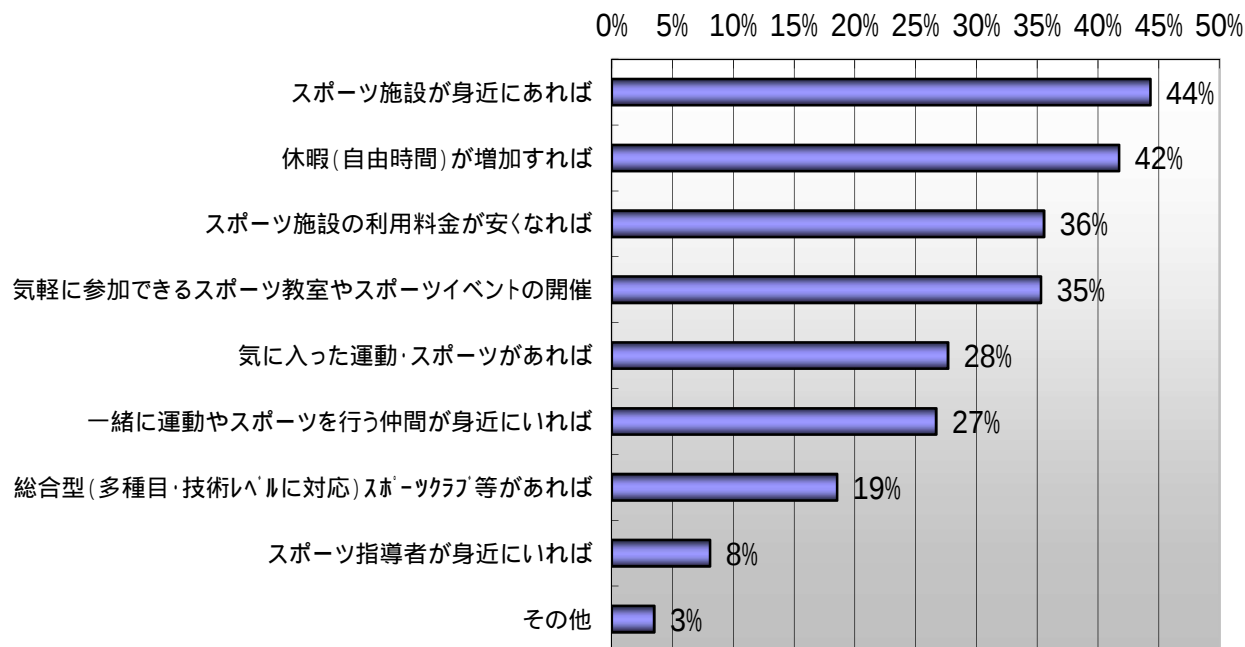


	%	
	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
運動やスポーツをしていて、満足している	11.7	11.1
運動やスポーツをしているが、さらに充実したい	13.4	17.3
運動やスポーツをしたいと思っているが、できない	60.1	57.7
特に関心はない	11.7	12.1
不明	3.1	1.8

問 29 どのような条件が整えば、今まで以上に運動やスポーツをするのか

回答者総数:1,634

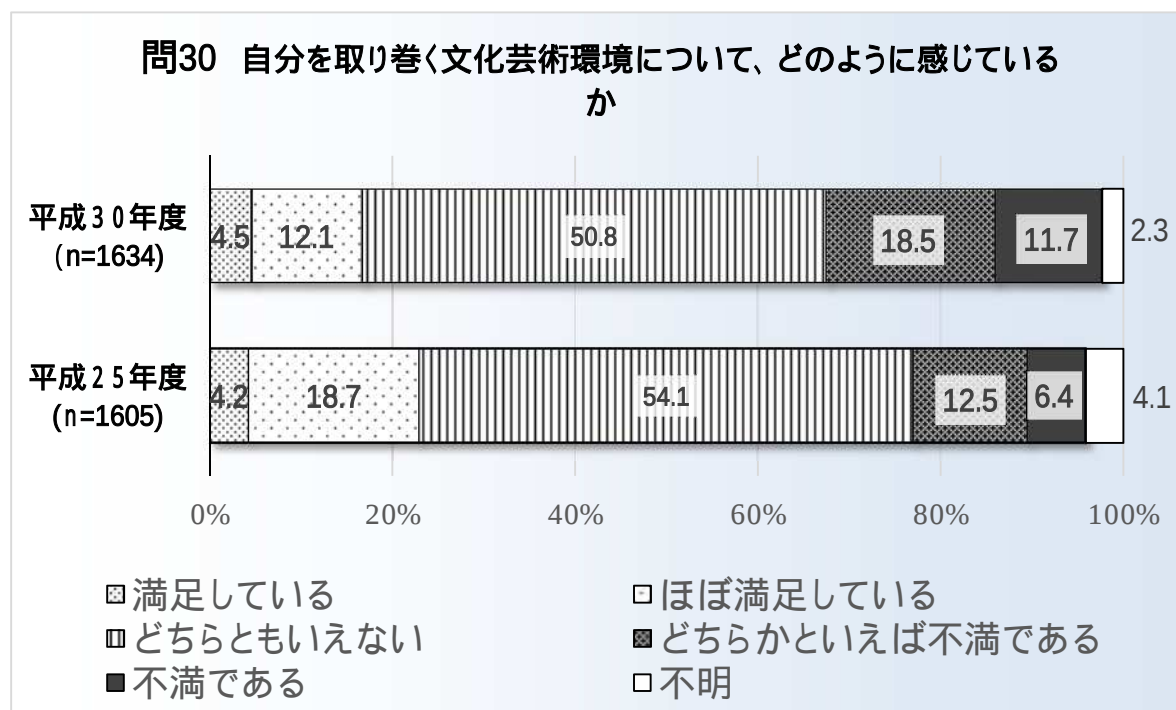
問29 運動やスポーツをするための条件 (複数回答)



「その他」の記述回答で主なのは、「子供を無料で預ける施設やサービスがほしい」、「子供と一緒に楽しむプログラムがほしい」などであった。

文化芸術の振興

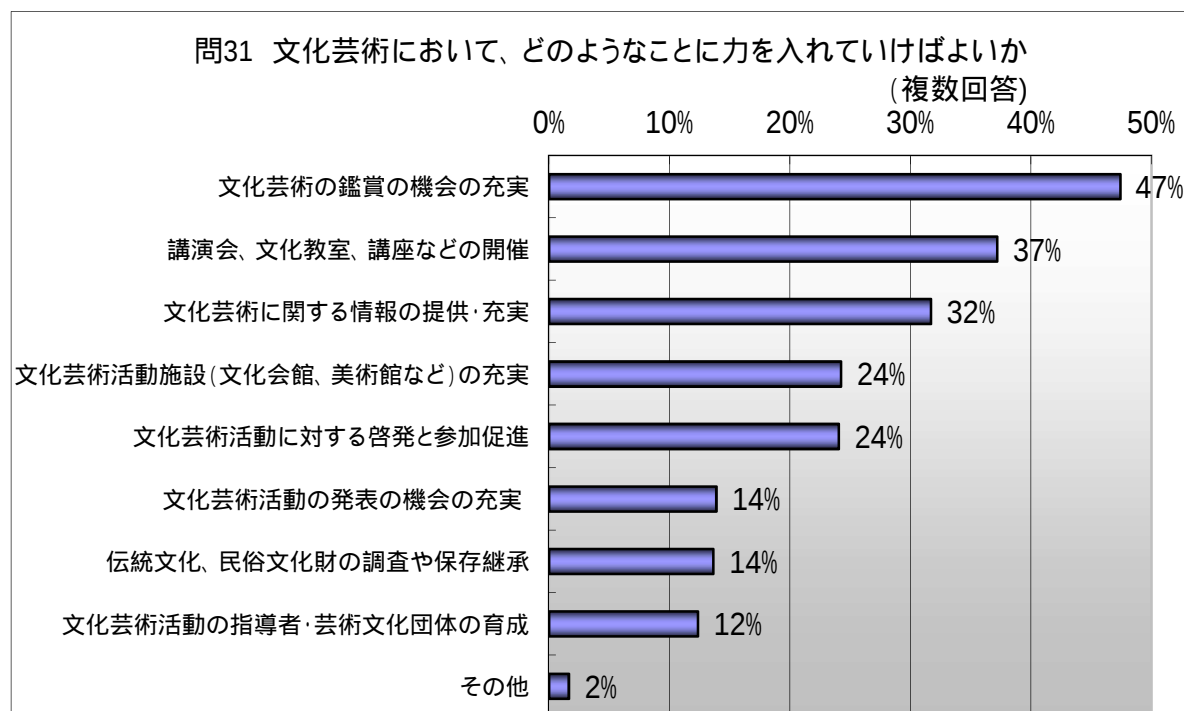
問30 自分を取り巻く文化芸術環境について、どのように感じているか



	%	
	平成25年度 (n=1605)	平成30年度 (n=1634)
満足している	4.2	4.5
ほぼ満足している	18.7	12.1
どちらともいえない	54.1	50.8
どちらかといえば不満である	12.5	18.5
不満である	6.4	11.7
不明	4.1	2.3

問 31 文化芸術の充実や振興において、行政としてどのようなことに力をいれていけばよいか

回答者総数: 1,634



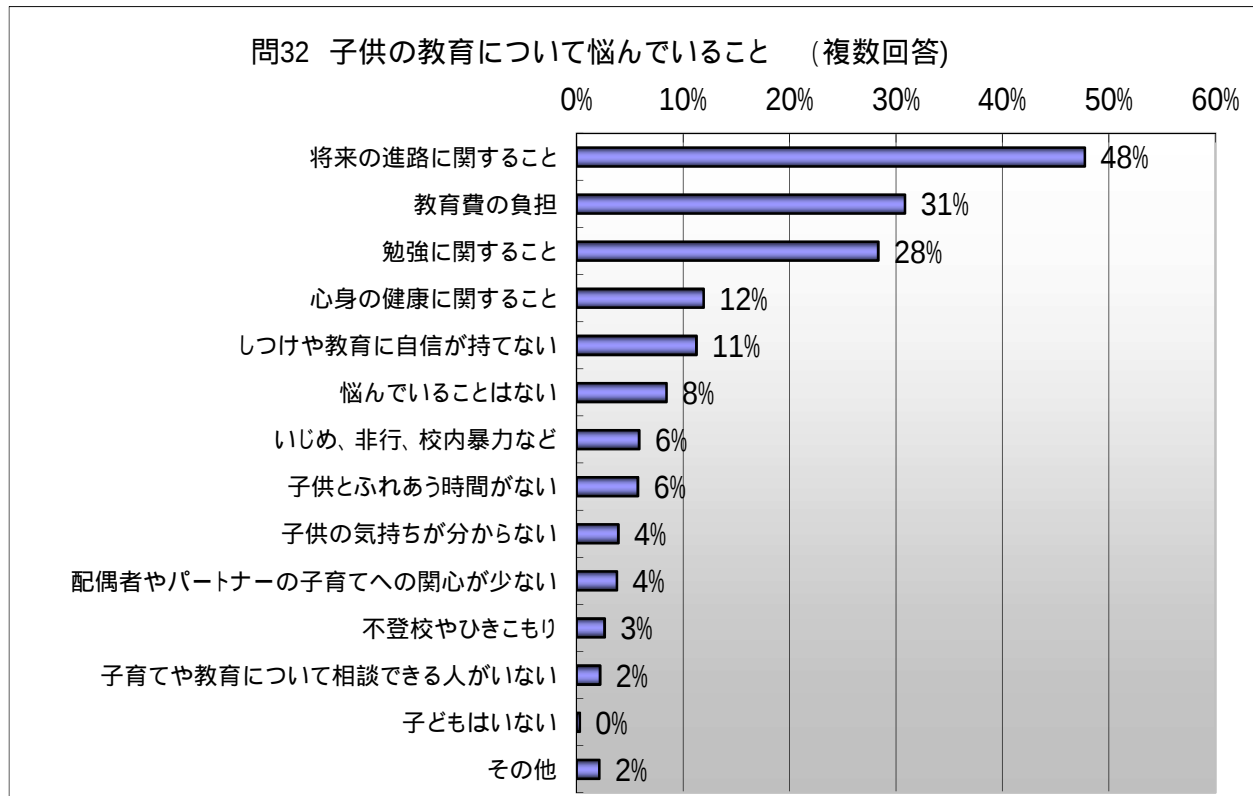
「その他」の記述回答で主なものは、「一流の文化芸術の鑑賞機会」、「学校主催の文化・芸術の鑑賞会に地域の人々・保護者を招待する」、「わからない」などであった。

その他

子供の教育全般

問 32 自分の子供の教育について悩んでいること

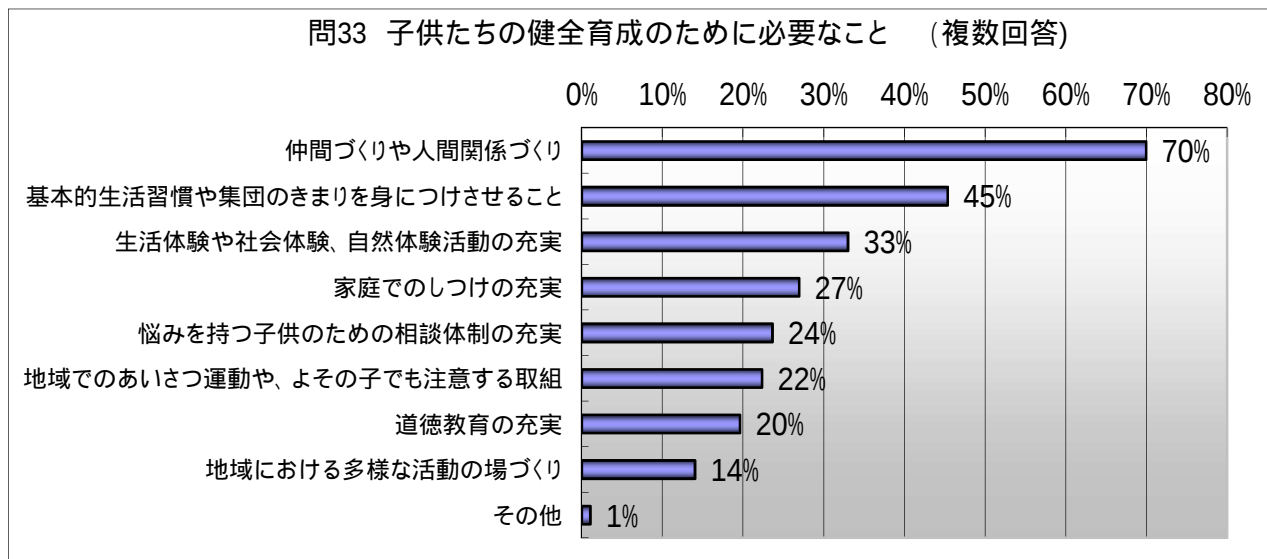
回答者総数:1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「配偶者と教育の意見が合わない」、「自立のための教育と福祉関係者への障害についての教育」、「友人関係」などであった。

問 33 子供たちの健全育成を図るためにどのようなことが必要か

回答者総数: 1,634

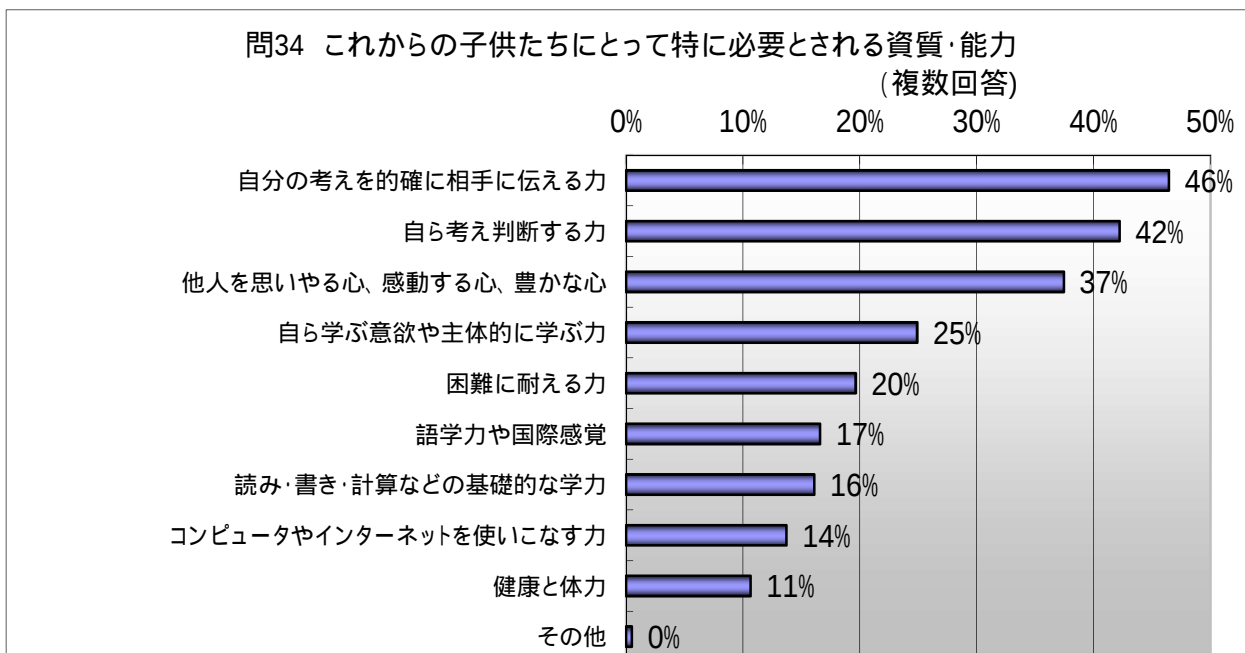


「その他」の記述回答で主なものは、「各世代が交流しある環境作り」、「子供が心から安心してすごせる家庭以外の居場所作り」などであった。

期待する人づくり

問 34 これからの子供たちにとって必要とされる資質・能力は何か

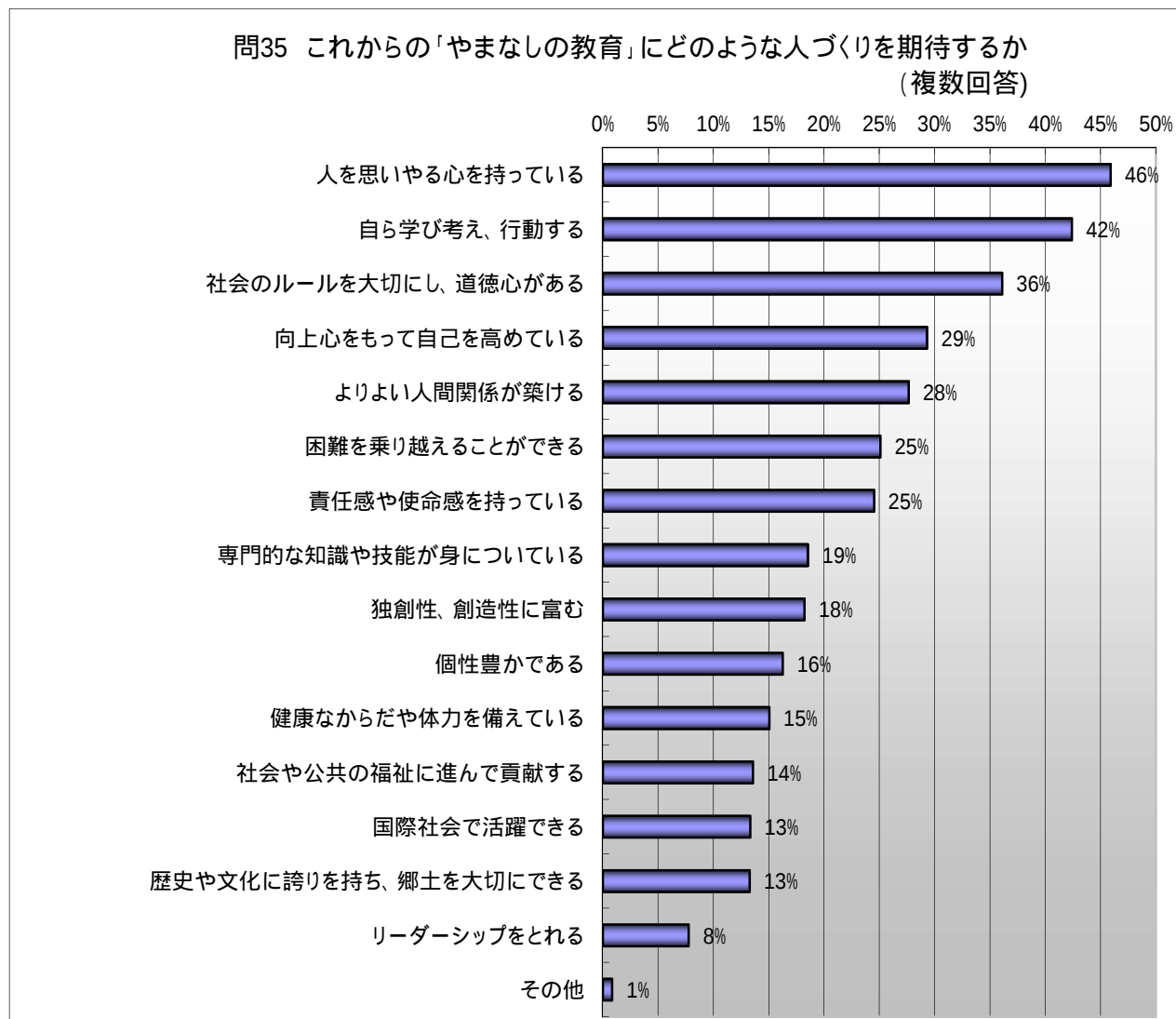
回答者総数: 1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「独自のアイデアを生み出す力」、「自己肯定感」、「素直な心」、「皆ちがうということを理解する力」などであった。

問35 これからの『やまなしの教育』に、どのような人づくりを期待するか

回答者総数: 1,634



「その他」の記述回答で主なものは、「リーダーに意見したり、そのリーダーがきちんとその他の意見を反映できること」、「協調性が身についている」などであった。

問 36 山梨の教育に関する自由意見

子育て・幼児教育

家庭での教育に時間を取りたいが、週末が勤務の仕事をしている為時間がない。週末の保育や学童を充実させてほしい。

小さい時の自然体験は大人になってもよく覚えている。その時にしか体験できないような教育、その場でしかできないような教育を望む。

学童保育や延長保育の充実もお願いしたい。女性の活躍を望むならば必須である。

妊娠中より母親学級や子育てサークル等で学び、意欲を持って父親と子育てに取り組んでいるが、義父母に(特に姑)昔の子育て(古い情報)や、価値観を口出しされ、協力してもらえないのがずっと不満である。そうした同居している家族(特に祖父母)に対しての子育ての情報や学びの場を企画、提供してほしい。

幼児教育の質の強化を望む。

子育ての悩みを相談できる人材づくりや機会はあるが、本当に悩んでいる方はあってもそれを利用することすらできない程だと思う。そのような方々をつなげることができるような施策がほしい。

保育現場に勤務している者として、やはり0歳1歳児のお子さんが入園出来ず大変困っているようす。保育士の補充のためには人件費がかかり、受け皿がなければお子さんを受け入れられず、しかしお給料が安いのに大変な仕事なので人が見付からない。

自分が子供の時を考えると、道徳は大切であり、基本のあいさつはしてましたが、最近は親もあいさつ出来てない。自分勝手に済んでいた人が親になっているので、理想と現実はずかしいと思う。私も何十年前に障害を持った子供達のスクールバス添乗をしていたが、子供達を幼稚部から知っていたので、中・高等部になっても私の言う事は聞いてくれた。とにかく小さい時から大人、親、近所のかかわり方でちがってくると思う。行政のかかわり、教師とのかかわり、大変ですが基本は親子だと思う。

家庭ですべき事、学校にお任せする事の判別が出来なくなっていると感じている。

孫が小学生なので、勉強、家庭の手伝い、しつけ、社会、家庭の決まりをふだんから孫に言いきかせている。、昭和の時代と違って、今は夫婦共働きがあたり前の時代。今の子供は家の手伝いも増え、遊びも学校の中だけ、学校、宿題、塾、手伝いで一日が終わり、せめて休みはゆっくりさせてあげたいと思う。

子供は2人とも成人していますが、違った考えを一生懸命押し付けた事も多かった様にも思う。可愛い時期にいっぱい楽しむ事の様に思うが、教育の方が優先の時代。若いお母さん、体に気をつけて子供優先に。

小さいうちから他人を認める心を育む教育をしていきたい。

マナーや規律などのいわゆるしつけができていない小学生が多い。親になりきれしていない親が多いように感じる。

少子化

中学校の部活動について生徒数の減少、統合の問題で生徒にとっては地域により本来ではあるはずの選択の自由がとても狭まっている。具体的に統合については県との連携が市民には伝わっていないが、新設校設置など思い切った変革を進めてほしい。

働く場、住む環境が充実していないと人口も増えない。子供を産みたくても育てられない。

子供が年々減少し、子供と大人が参加して合同で行事を楽しむ行事が出来なくなっている。子供や大人が少なくても楽しむことのできる行事を計画してほしい。

少人数教育

保育士や教員の人数確保をお願いしたい。多様な家庭・児童生徒がいる現代、昔のように30～40人を一人で指導するなど不可能であると考え。

小学校の体制を3年生以降も少人数で行うべき。学校の教育内容が増えているのに、教師は授業を進めるの

にいっぱい、いっぱい子供に対応しきれていない。少人数制にして 1 対 1 の指導内容をもっと充実させるべき。
中学校において、1つのクラス内の学力差が大きすぎるように感じる。差別にならないように苦手な生徒は少人数で対応し、英・数は習熟度別での授業を検討してもよい。
学力向上
子供達の学習能力が他県より劣っていることについての改善を早い段階でしてほしい。
小・中学校での学習をもっとしっかり子供に身につけさせてほしい。
小学校低学年のうちの学力が高い子供たちへのフォローを充実させてほしい。
昔と比べ子供達の習い事などがある子供が多いが義務教育中は学校で基礎学習を学ばせるように毎日宿題を出して取り組ませてほしい。
子供が勉強できる環境は整っているが勉強をして成績を伸ばそうと思う気持ち、やる気が今以上に強くなるよう、導いてほしい。親、学校が共同で子供の気持ちを高めたい。
学校によって宿題の量が違う。
学力向上に向けて公立中高一貫校を設立して欲しい。
学力が全国平均より下なので、学力の高い地域に研修に行き、山梨の教育に是非反映してほしい。
他県から引っ越して約 8 年山梨に住んでおりますが、教育レベルの低さが気になる。スポーツも同様。せめて全国平均ぐらいまでには、レベルアップが必要だと思う。
山梨は学力が低いと聞いている。教員がICTに頼らず子供の学力を上げるような取り組みを大事にしてほしい。子供の個性を大切に能力を高めてくれるようなしくみを構築してもらいたい。
H32 年度、全面実施のプログラミング教育にむけても、新しい物だけを取り入れるわけではなく今までの教育の良さも残しつつ、辞典や辞書、資料等を使いじっくりと学ぶこと、ただ単にパソコン!!というわけではない、指導者が学校の教師に限らず、地域の人(その分野に精通した人)であっても良いとのこと。情報化やグローバル化など急激に変化する社会の中でも未来の創り手となるために必要な資質能力を確実に備えることのできる学校教育を期待する。また、小学校低学年のうちは、デジタルではなく、時間を忘れて遊ぶ機会も大切にしていきたい。山梨のこの豊かな環境を活かしたスポーツフェスティバル、レクリエーション、親子でふれあうきっかけがあると良いと思う。
学力も大事ですが、様々な職業や福祉活動などを知る機会、見たり聞いたり体験する機会がもう少しあった方がいいと思う。
単なる学力での教育県ではなく、独自色が必要。
小学校高学年における行事が多すぎると思う。教科の指導時間が確保できているのか心配になる。じっくりと地道に国語、算数、理科、社会を中心に先生方に教材研究の時間を十分にとってもらい、良い授業をしてほしい。
様々な情報が色々な方法で入ってくるこの時代の中で正しい情報を見抜き、良い選択ができるように指導してほしい。
教科だけでなく、個々の個性を伸ばせる教育が大切だと思う。今はつめこみ教育で、親も宿題を見ねばならない。共働きが多いのに親も先生も子供も負担が多くなっているように感じる。子供達が自由に遊べる時間があると、心に余裕も生まれるので逆に勉強に集中できると思う。
いじめ・不登校
子供達には放っておかれる時間、一人での時間大切。必ずしも輪の中に入っていることがいいわけではなく、自分を取り戻すために一人でいさえることを教師が怖がらないような体制も必要。
いじめている子供のカウンセリングをしないといじめは終わらないと思う。
特別支援を必要とする子供が我が家にも1名いる。もう1名は普通の子供。普通の子供は特別支援を必要とする姉がいるので、いじめられる。普通の子供にもいじめから「守る」支援がほしい。
いじめについては、ブラインドを作らない環境作りを構築してほしい。いじめは犯罪、いじめる側が 100%悪いと

いう教育を。自殺や事件になる前に、警察をもっと介入させるべき。いつでも社会が介入する可能性があるという危機感を現場が持つ事で親、教員、当事者へ抑止力が働く。
いじめなどにしっかり気付いて対処してほしい。いじめっ子はいじめと自覚していない人が多い。
子供が不登校になり、先生や医療機関、適応指導教室へ相談したが、改善しない。改善策がない。親が大変になり、悪循環になってしまう。勉強も分からず、教室に入れず、一人になってしまう。少人数または個別の教育が大切だと思う。
不登校や引きこもりの子供が多くなってきている。又、心身ともに根深く光がみえない。そういう子供達がまた人を好きになり、社会への復帰にむけての援助が必要だし、身近な寄り所があるとよい。
不登校問題に取り組んでほしい。
学校に子供達が気軽に相談できる専門員をおいてほしい。
進学・就職・キャリア教育
インターシップの回数、インターシップの選択の幅をもっと広げ、職業について考えるチャンスをもっと与えてほしい。小学校のうちから意識できる環境を作してほしい。
山梨には高等専門学校の設置は難しいようだが、高専があるとないのでは山梨での就職にも影響していると思う。山梨には高専はないが、中学校の先生には県外には高専の選択肢もあることを子供たちに伝えてほしい。
道徳
子供達だけに道徳を伝えるのではなく家庭でも取り組めるように保護者も交えた講演会などを学校で取り入れてほしい。
一般的に言う学力よりも、善悪、善し悪しの判断がつく人間に育てていきたい。道徳教育をきちんとし、精神面でも経済面でも自立できる人間に育てていけるよう、家庭、学校、各指導者が子供達を将来に導いてほしい。
勉強も大切でも今の子供達にとって一番大切なのは道徳教育と思う。
子供達を取り巻く環境は日々進歩している。少子化・核家族・両親が勤めるなどの中で、教育現場・行政・家庭がしっかり連携していく事が大切だと思う。先日、テレビで道徳教育についてやっていましたが、子供達の考えを先生方がいかにくみ取っていくのかで、子供達の将来も変わっていくのかと思った。
学校体育・部活動
小中学校でもスキー教室の実施してほしい。ウィンタースポーツのきっかけを作してほしい。
公立の高校の女子サッカー部の充実。女子サッカーの普及、充実。
小さな小学校、中学校での部活動のあり方を検討してほしい。やりたいスポーツがないことや、少人数で負担が多いことある。
公立の学校も、県、市町村、地域住民が協力し、学生寮を作り、遠くの生徒も通え、公立の学校でも全国大会へ参加できる環境をつくる。
平成 32 年より新しい教育課程になるため、平成 30 年度より長く続いた伝統的学校行事がなくなり残念である。
中学校の部活の朝練は廃止にすべき。
公共機関を利用して大会や練習、学校など施設にたどり着く事ができない不便性を改善してほしい。運転免許を持たない学生など、自己の力で移動できない立場の人は家族の送迎に頼らざるを得ない現状がずっと続いている。スポーツ、文化を推進と言うのであれば、どんな立場の人でも参加できる環境に整えるべき。
全ての高校にハンドボール部が出来たり、ハンドボールというスポーツが小学校の体育でも学ぶことが出来ればと思う。
中学生の部活動時間はどんどん制限されて体力の維持ができない程、ストレスも発生しています(本人の)。部活動が活発でないため、校外のチーム活動に入団する子が増え、ますます部活動が減弱しています。地域の大学、ボランティアとの共生、生涯スポーツなどと合わせて、子供のスポーツ時間を増やしてほしいです。
中学校で、毎年開かれていたマラソン大会が来年度から行われなくなると聞いた。十代で運動することは将来の健康を左右すると思う。全ての子供が運動する機会をなるべく増やしてほしいと思う。
子供が中学生の時、生徒の人数が少なかった為、部活動数が限られており、好きな部に入れなかった。

特別支援教育
発達障害の息子をもつ親としては、特別支援学校の充実を望む。入学卒業後の進路先が非常に少ない山梨県で、軽度の障害をもつ息子が社会に出られる準備、勉強ができる高校があると良いと思う。桃花台学園のような学校がもっと近くにあればと思う。
発達障害のグレーゾーンの子供達へのサポート、理解が少なすぎる。教員の理解も得られない。生活しにくい、学習困難等、悩んでいる親子がとて多いことを分かってほしい。
特別支援が必要な親子が増えているにもかかわらず対応できる専門職が少ないと思う。特にへき地では幼児教育の人材不足が深刻だと思う。
特別支援へ行った方がいいお子さんが、今の先生からは特別な進言がなく普通級を考えていて、就学時健診の時に初めてそういうお話をされて驚いたという事があった。この件とは反対にずっと育てにくいと思っていたが、子育てサロンで先生に指摘され早期に療育を開始することができ、はじめは心外で頭にきたが、結果的に良かった、という方もいる。現場での意識にムラがあるように思った。
地域の中学校の特別支援学級への進学を考え、調べたところ、特別支援コーディネーターの先生はいるが、特別支援学級での授業体制に課題があることが分かった。中学校は義務教育なので、支援学級にも、もっと力を入れて体制を整備してほしい。
幼児教育・小・中学校における発達障害、もしくはグレーゾーンとされるお子様と、保護者のケアや支援(寄り添い)のできるところが少ない。学校、行政、福祉サービス、医療がしっかり連携をもち、障害を持つお子様とそのご家族が安心して地域で暮らしていけるシステム作りが重要と思う。
幼児期に発達段階を親に積極的に周知し、適切なりハリピの先につなげるためなどのマニュアルがほしい。事務的なガイドラインばかりではなく、学校の先生が対応しきれない分、行政の力で派遣してほしい。発達障害＝医者＝薬のようなシステムではなく、発達障害がなぜおこるのか、まだ子供を産む前の中高校生への教育をしてほしい。
私には知的障害の子がいます。社会に出た時、支え合うことのできる一人の人間としてたくましく成長してほしいと願っている。そのためには同世代の社会を築いていく子供達にも理解してもらいたいと思っている。保護者も社会の方々に理解してもらおうと努力しているが、かなりの勇気とそして限界がある。やはり学校教育の中で交流及び共同学習などの活動を活発にしていってほしい。
支援学校に通っているが、学習指導に関してとても失望している。こんなんで力が付くわけがない。障がい者の雇用率を上げる、それは単なる数字だけでよいのか。その真の意義や、そのために本当に必要なことは何なのかを真剣に考え取り組んでいるとは思えない。学校での学習が不十分。一般の子のように通える塾もない。学力を上げたくても、上げる機会も場所もない。学びたいのに学べない。私たちの学習意欲や学ぶ権利が軽んじられ、蔑ろにされているように思えてならない。
支援学校での教育は充実していますが、親亡き後、生きていける力と生活能力、精神的安定など、障害者でも安心していけるような教育と卒業後の生涯を通じての教育も充実してほしい。
40 人学級の運営ができなかった先生を特別支援学級担任とする人事が多いと感じるが、特別支援教育こそ良い先生を望む。適性のない先生の居場所にされては困る。
学校安全
交通手段を充実させてほしい。駅まで行き帰りバスが早朝一本しかない。自転車での通学がとても危険。
私の住む地域では放課後に子供たちがすごす場がなく、子供達がお金などをもち、コンビニやスーパーなどで集まっている姿をよく目にする。児童館もあるが、放課後保育をする子供たちがあふれかえり、施設の充実感が乏しく感じる。
通学路が細い道であり、車の交通量も多く、ガードレールもない。子供が通学するには危険箇所が多い。親とすればしっかりそのあたりを目で見えて改善してほしい。
学校制度

給食の時間がとても短いので長くしてほしい。
山梨県では小、中、高校の教員が少ない。これから子供は減っていき、その分教員は必要ないように思えるが、その逆で全然足りていない。
高校は現在甲府地域の普通高校に人気が集中して、地域外の学校へ行かないとならない場合も多々ある。高校の学力の差を作りたいのか、目的がかわからない。
人気のない高校は特色ある学校を目指し探してもらいたい。
先生方の研修が多すぎて担任がクラスにいない事が多く子供達がおちつかない(特に新任の先生方)。研修を終えてからクラス担任になっていただかないと子供にとっては同じ学年は2度とこないで考えていただきたい。
親が教育委員会に何か言ったからって良い先生が学校にいらなくなるのはおかしい。本当の事をちゃんと調べてから決めてほしい。
全ての子供達にいろいろな可能性があると思う。その中でどんな事がその子にとって能力が発揮できるか勉強面がスポーツ面が芸術面が等総合的な教育から専門的な教育へ移行できるようにしてほしい。
中学、高校は部活動に力を入れているが各学校により種類の数に違いがあるので、本当に入りたい部活を選べない学校もある。
中学校生徒全員が部活に入部する。
高校は全県一区になり、遠くの学校に通う子が増えている。早急に高校生が一人で通学できる環境を整えてほしい。
基礎的な学習に力を入れていただき、点数評価だけではなく、子供の得意な分野をいち早く見抜く教育で、山梨で生活できる人材の確保と、山梨の文化を知り、山梨で余暇を楽しむなど、教育課程を終えて山梨を愛せる人に育ててほしい。
18歳で選挙権を持つと言う事は、自立を確立し社会の一員で有るという認識を持たせなければならない事と思う。そのためには社会のルール、人としての責任等、しっかりと教育する必要がある。その一環として、二輪車による交通安全教育が最適かと思う。オートバイを学生から遠ざけるのではなく、もっと身近にして交通社会の一員であると認識させる事が自主・自立を促す事につながる。
山梨には「自然」という教育資源が充実しているので、それを活かす取り組みを求める。今後、更に教育の格差が広がっていくことを懸念している。
学校行事など、家庭事情に配慮した日程、内容になっていくとよいと思う。逆に家庭は学校から発信されたものについて、もっと関心を持って目を向け足を向けられる余裕が持てるとよいと思う。
地域の小中学校の先生はとても忙しく一人一人の子供をきちんと見て向き合う時間がないと思う。先生を目指す大学生や社会人、退職された先生方、地域の大人の協力・連携が必要。
自身の事だけではなく、他の人にも関心を持ち、スポーツや文化を通じて「思いやりの気持ち」を持てる取り組みができたと思う。また学習に関しても、少人数で主要教科は先生に2人体制とかも考えてもらいたい。
顔のわかる学校づくりをしてほしい。
学校出席日数と学習量があていない。週休2日制廃止希望。
ゆとり教育の廃止。
教育の予算を増やす、家庭教育の充実、教員の数を増やす。
教員
教師の仕事が多く、生徒とのコミュニケーションも不足していると思う。もう少しのびのびとした生活を送れると良い。
小学校の学年でも、クラスによって宿題の量が違ったりすることもあるので、学年として話し合って平均的にしてほしい。
公立学校の教員の質を上げてもらうことを望む。大学卒業後、一度社会の圧力にさらされていくことが大切と考える。大学の修業年数を増やしたり、更新制度を導入、社会形成の活動に参加することこそ必須にしてもらいたい。
教師をはじめ教育関係者には専門的な目で一人一人の子供達のキラリと光る原石を見い出して導いてもらいたい。

教育に関しては、教職員の質のアップを望む。昔のように、悪い事をしたらげんこつをする。今では「体罰」ととらえられているが、悪い事は悪い、良いことをしたらほめる、といった教えができればよいと思う。
教育者の育成。特にいじめや不登校学校の先生によるいじめ等が原因であることが多い。
横の結びつきが強いのか、良い事も悪い事もすぐに広がってしまい、のびのびできない。閉鎖的な文化は、異動のある教員が新しい文化を取り入れて改革してほしい。
山梨の自然を教育にも積極的に取り入れ、自分たちはすばらしいところで育っているんだという誇りを持ってもらいたい。
小・中・高と教える先生によって成績がのびる子とそうでない子の差がはげしい。生徒のやる気を出してこそその授業だと思う。
子供を注意及び指導できない教員が多くなっている。威厳のある教員を多く養成してほしい。
子供の教育に力を入れるならば、まず教員の育成が必要と思う。学校へ行った時、子供より、教員の方があいさつしないとか、教員(指導者)が子供に指導する立場なのに指導とは思えない発言をする教員もいる。
学校によって違うのは仕方無いが同じ学校なのに担任によって差がありすぎる。宿題の量、席替えは他クラスは月に1回あるかないかで、うちのクラスだけ2週おき。先生の気分は変わって良いかもしれないけど子供達は正直落ち着かない、と。細かい事だが学校で統一して欲しい。
態度、言葉つかい、中学校でのいじめについて中学校での職員への指導に取り組んでほしい。
担任の先生や学校によって対応が違う体制に疑問を感じている。支援を必要とする子供に対しても、他の生徒との公平性を求めるのは納得できない。
通常の中学の授業が塾ありきという感じである。
支援学校の先生方の指導の充実、接し方の改善。
学校教育において教師の力が大きすぎる。教師の評価の仕方で、子供の進路が変わってしまう。教師の質の向上と、教師の片寄った評価を修正できる仕組みが必要。
1. 教職員の負担軽減 長時間労働しているとのデータがあり、その軽減を図っていかないと良い教育は望めない。疲れてイライラしている人に良い仕事はできない。 2. 低い学力レベル 最高学府出身者が悪いことをする世だし、梨大出身の大村さんがノーベル賞をとれるのだから、学力レベルに振回されない方がよいのではないか。大正・明治時代活躍した山梨県出身者の才覚とバイタリティを備えた”人づくり”が望ましい。 最近の先生たちは親をこわがってマニュアルどおりの教育しかしていないような気がする。あまりマニュアルばかり見て教えるのではなく、一人一人何でも言えて信じられる先生をつくってほしい。
教育費
教育費の負担が大きい。高校授業料の無償化や就学支援金支給などを進めてほしい。又、食育として学校給食をもう一度見直していただき、子供達においしい給食を提供していただきたい。高校授業料の無償化に加え公立高校の給食提供も希望する。
小学校等では学校以外で塾に通っている子供が多くいるが、親の収入が低く塾に行かせられない家庭もある。夜間学校を開放して勉強する場所を提供してほしい。
教育予算の充実。教職員の増員を望む。
子供の人数が多く今も大変だが、今後の教育費に不安があるので対策や、安心して子供を産み育て、成長させていくことができる制度の充実を望む。3人以上の子供の年齢が近い場合の幼児期の支援や保育の無償化などはあるが、年齢が離れている場合には、あまり支援がなく、上の子達に沢山お金がかかる中、保育料が高いため経済的に大変である。
教育に関してはお金を惜しまない。少子化では有るが、安易に学校を統廃合をしない。自宅から歩いて通学出来る状況に戻す。
地域によって教育にかけられる予算が違い教育の格差が見られる。お金の有る所は教員を多く配置できたり、教具もたくさん買えることができる。お金の無い所は、カラーコピー1枚とるにも気を使う。地域での格差がないように、お願いしたい。
中学の勉強で、将来が決まってしまう。どうしてもなりたい職業があっても伴う学力がなければ進学が出来ない

が、頭のいい、悪いは家庭環境も影響してくると思う。余裕のある家庭は習い事ができるが、余裕のない家庭は、子供の能力や時間までも奪うことになる。言い方はキツイが、お金のある家庭の子供は...大学にも行ける。お金のない家庭は、選択肢が狭いのが現状ではないか。
教育への予算をもっと増やして欲しい。
山梨の私立小学校の学費がもう少し安くなってほしい。子供2人以上だと入学させられない。
施設設備
笛吹市にはプールが無く、近隣のプールに行かなくてはならない。
富士東部地域に住んでいるが、近くに公共のプールがない。プールは維持費がかかるかと思うが、泳ぐだけでなく、ウォーキングにも不荷が少なく、幅広い層が活用できると思う。公共のプールの建設を希望する。
県外に比較し、スポーツ施設が古く、スポーツ環境が悪い。特に競泳用プールはひどい。
50m 屋内プールを建設してほしい。
子供が学びながら遊べる所・施設を増やしてほしい。
身近な所に保育園、学校等の教育施設が無いため、今後、子供ができたときに不安である。子供の体力面が他県に比べ、低いと感じる。最近では、保護者が過保護になっており、教育の仕方が難しいのではないかと思う。
障害児が楽しめる施設が増えてほしい。
もっといろんな器具の揃ったトレーニングジムがあるといい。体を動かせる施設を増やしてほしい。子供が気軽にいろんな事を体験できる行事を増やしてほしい。
子供達が安心して遊べる公園施設などがほしい。
甲府方面に比べ、郡内は文化施設に乏しい。本物の芸術にふれたりする機会をもっと増やしてほしい。
公園や屋外運動施設など、子供達が気兼ねなく使える施設を増やしてほしい。
山梨のスポーツ、文化は甲府に集まっているため、富士東部の人間は利用しにくい。甲府に行くよりも東京の施設の方が利用しやすい。東部にも科学館などがあれば良いと思う。
スポーツ施設の充実 サッカーグラウンドが整備されていないので人工芝のグラウンドがほしい。
子供が安全に外で遊べる場所を作ってもらいたい。
スポーツ施設が整っていない地域なので、なかなかスポーツが出来ない。
図書館が市に1ヶ所しかないので、分館を作してほしい。
郡内、南ブス、甲府と地区別にそれぞれスポーツも文化もよい施設があるので、それを活用して子供達に豊かな学びを得てほしい。
過疎地域における公園の充実。
室内スポーツ施設、室内遊技施設を充実してほしい。
他県に比べてスポーツ施設が少ない。バスケコートが3面とれるアリーナがほしい。
子供が伸び伸びと遊べる場所づくりに努めてほしい。
合併などの空き校舎の有効活用として、スポーツ施設、文化施設など作ってほしい。
私の住む市だけテニスコートがないことに不満を持っている。市内の学校のテニスコートは子供達がプレーするのにコンディションが悪くてかわいそうに思う。
サッカー競技場を早急に建設してほしい。
劇場 etc が少ないので、作ってほしい。
家庭
乳児健診の時などに子供をしかる時の注意点を伝えていった方が良いと思う。
行政や学校よりも家庭が一番の影響を子供に与えると思う。親が社会のせい学校のせいと思うのではなく「子は親の鏡」と思いながら、子供の姿を見て反省したり喜んだりしながら一緒に成長していけたらと思う。
教育に力を入れるよりも子が自由にのびのびできればそれでよい。親を見て育つ子であるので、お手本になれるような人になりたい。
長期休み中の宿題が多過ぎて親の負担になる。
全てを学校にまかせる事が良い事なのか、教員の負担増加は教育の質をさらに下げる事にならないか、学校・家との役割分担が必要だと思う。人口減が進む中、学校も集約し質の維持も必要。
何でもそうですが、「教育」に関してほとんどの親が他人まかせな様に感じる。自分もそうだが、もっと率先して教

育に取り組んで行く様にする必要がある。
親への道徳教育を。時代と共に親の感情が違う。
地域
甲州市のつるしびなの活動をもっと子供達に感心が持てるように学校訪問などしてほしい。または、子供達が甘草屋敷へ訪問などしてほしい。
金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」のように、「みんなちがってみんないい。」という事を、もっと身に沁みて感じられるような郷土であってほしい。少し、閉鎖的な思想や意見を持つ人が多い気がする。
すべてにおいて地域との共有ふれあいをもっと作りたい。
学校と地域、行政などがより一層連携していけるようにしていく。指定区変更が可能な地域は地域の育成会などでも子供のことは把握しにくくなっている。それをどの様に解決していくかなどの課題がある。
山梨の環境で育った子供が大人になり、山梨で働き、自分が学んだことを下の世代へ広めていくという連鎖ができればとても良いと思う。
学校教育は主として平日に、休日には地域や家庭でよりよい経験ができるような体制が整うとありがたい。豊かな自然環境の中で首都圏で教育をうけている子供達に負けない学力も身につけさせたい。
他地域にない教育、例えば武田信玄の学習や南アルプスの自然について等、身近な題材を学習してほしい。
昔はあった町全体の運動会をまた復活して町の人達との交流があるといいと思う。運動会ではなくとも一緒に体を動かす何かをみんなでできたらと思う。
本村ではここ数年、児童、生徒数は現状維持が微増の傾向にある。それは村外からの移住者とその子弟によるものである。新住民の子弟は、なんらかの家庭事情があって転校してきたわけだが、これを学校職員がよく理解し子供達もいわゆる「よそ者」という感覚でなく、仲間として、温かく受け入れている。地域の教育力を高めるといのは、こうした雰囲気醸成することであり、換言すれば、家庭、地域、学校が行政と一体となることから生まれると考えている。
近所の小学生、中学生に遠慮しないで、大人の方から積極的に声をかけ、うそをつかない素直な人間に育つように導いてあげることが大事だと思い行動している。勉強も大事ですが、まず対話だと思う。
地域には山村留学という制度が有り、いろいろな所から子供達が来てくれている。知らない土地へ来ての子育ては不安だろうから、地域の人々とみんなで育てられたらと思う。
文化の拠点である小中学校が閉校となり、地域は活力を失った。合理化が全てでないと思う。住民が安心して生活できる教育環境を考えてほしい。
地域の交流が少なく、近所の人達と子供が話す機会がないので、淋しい感じがする。小学生が大学生の声を聞いたりできたら良いのでは。スポーツを通じての交流も良いと思う。
生涯学習
スポーツ、文化共に学外での活動も多く取り入れたくさん刺激を得て学び、自分で考え行動する力をもって、のびのび育っていく環境であってほしい。
スポーツにスポ少があるように、文化も子供達が身近に学べるよう、文化的教室も子供達にぜひ経験させてほしい。
食の教育をもっと充実してほしい。添加物が含まれていない食事をとらざるをえない今の世の中で、ミネラル、カルシウム等、本当に大切な事を教えられる人材が必要。学校教育だけではなく、生涯学習等、自分で選び学び選択していく授業も増やしていくべき。
山梨の自然を生かした体験が四季を通して、色々気軽に出来る環境を増やしてほしい。
スポーツ、文化活動とも、年齢レベルを問わず、低いレベルでも楽しめる参加可能の場がほしい。
県内 3 カ所に住みましたが、それぞれ文化レベルに格差があった。人口の少ない地域では十分な機会にめぐまれない点もあったので、その地域に応じた、講演・コンサート、講習などの機会があればと思う。
自分が学びたいと思った時に、情報や学ぶ場所が少なく、残念に思った経験がある。大都市と同じように行うのは難しいが、生涯にわたって学べる環境を充実させてほしい。
昔よりもイベント等が増え、体験や物づくりを経験させることができていると思う。今後はより専門的な体験、例えば料理とか医療とか警察消防など、子供達にもっと身近な経験が出来たらいいと思う。

生涯スポーツ
スポーツに取り組む子供が減っていると思う。
スポーツ、文化に気軽に参加できるイベントを増やしてほしい。参加申し込みの情報提供の充実をしてほしい。
県主催のスポーツ教室や運動場、体育館等の施設の開放をしてもらいたい。
スポーツに関して、指導者が少なく全般的にレベルが低い。指導者の接遇を改善してほしい。
子供達が気軽に使えるスポーツ施設が充実させてほしい。
スポ少など全体的に大人の都合や権利が優先されて、子供ファーストになっていない場面が多いと感じる。
東京オリンピック開催に向けて県内でもスポーツに関心を持ち、大会関連行事に子供達が参加や協力ができるようにしてほしい。
硬式野球スポーツクラブの山梨での活動を充実させてほしい。山梨県は他県よりスポーツ活動が充実していない。規制が多く、グラウンドがない。
長野市ではエアロビクスやヨガ、ダンスなどの講座を格安で3ヶ月間やっていたり、市民が気軽に運動できる環境にある。地域にジムもあるが、遠い上、スタジオは月に7~8000円払わないと利用できず、気が向いたら気軽という雰囲気ではない。
スポーツの面から甲府など国内地域に施設を集中せずに郡内地域にも目を向けて整備をしてもらいたい。
子供の数が少なくなっているのに、スポーツ団体が多く、子供が分散してしまい、チームの存続が心配な事。
専門分野(スポーツ)では、クラブチームに属していないと参加出来ないスポーツがあるので、一般参加等、誰でも参加出来る枠があれば、ここの能力を発揮出来る場が持て、山梨も発展していくのではないかと思います。
子供が小学生の頃、アスリートをやらせたかったが、遠征等などの家庭の事情で続けられなかった。甲府の小瀬で大会があったと思いますが、地方の会場でやるなど考慮してほしい。
小さい子供を持つ親は、スポーツなど体を動かすことが充分にできないので、無料もしくは格安で子供を預けてスポーツできる環境がほしい。
バスケットボールチームのクインビーズなどの観戦を積極的に働きかけて欲しい。現状全くPRが足りないと思います。
人口減少が進む中、箱物を作るだけでなく、各地区で少人数でやれる行事、スポーツを考えてほしい。
年齢を問わず、参加できるスポーツイベントなどが増えればいろいろな人と交流も進み、より良い環境が構築されると思う。
スポーツ界の活性化。とくに、スポ少、クラブチーム等子供達が活躍する場所を増やしたい。存続困難なチームもあるので山梨県全体で活性化してほしい。
山梨県内のスポーツ、大会において情報提供してほしい。又、性別、年齢問わずスポーツ大会、イベントに参加できるよう推進してほしい。
スポ少の指導者の指導の仕方を考えて頂きたい。指導者を怖いと思いながらスポーツをするのは良くないと思うので、考えていただきたい。
小さいうちにいろいろなスポーツ、文化にふれる機会を沢山あたえて、その中から自分に合ったもの、興味のあるものを気軽に出来る環境がほしい。
部活動では、中学・高校から地域スポーツクラブ等へ移行することが予想されるが、さらに充実するよう行政がリーダーシップを発揮してほしい。
一流と言われるスポーツ選手などと子供達が交流する場を増やす。
障害があっても続けてできるスポーツの場を増やしてほしい。どうしても障害をもっていない子と持っている子が一緒に体験しても、話が聞いてもらえないなどの理由から、指導者の理解が得られず継続できないため。
障害者スポーツ大会等の体を動かす行事を継続してほしい。
障害者スポーツの充実。
パラスポーツ、スペシャルオリンピックス等を支援してほしい。障害のある子供は通常の小中学生よりスポーツの機会が少ない。
山梨は全国に比べて学力や体力が低下している。もっと放課後に空き教室を使って勉強を教えたり、外や屋内で遊べるように心掛けても良いと思う。

スポーツの大会や文化イベント開催などの周知をもう少ししてもらいたい。
芸術文化振興について
古典芸能や地域の伝統芸能を身近に感じる事ができるよう、講演会などを増やしてほしい。
スポーツ、文化に気軽に参加できるイベントを増やしてもらえると良いです。参加申し込みの情報提供の充実をしてほしい。
芝居やミュージカル、歌舞伎等、劇場で直に触れる文化が少ない。東京まで出なければ”見る”ことが出来ない。また、その際、障害者も楽しめるような対応も足りない。車イス対応、視覚障がい者、聴覚障がい者への対応も必要。なぜ山梨の子供のレベルが低いのか、原因の調査が必要。また結果の公表や改善策、周知も必要。
山梨は自然豊かな土地で、素晴らしい美術館や博物館等の施設もあるので、それらの物を十分に活用して欲しい。個人的に県立の美術館、博物館、科学館の利用料を土曜だけでなく、休日全て無料にしてほしいです。もしくは、子供連れの親も無料または半額になるとか…。お金をかけずにスポーツや文化に小さい頃から触れさせてあげたいと思います。早急に検討をお願いします。
文化レベルは他県と比べ、低いと思う。
音楽を愛する文化が低い。
美術や音楽など実際に鑑賞したり体験することで本物にふれる機会と文化・芸術への関心を高めたり、科学・スポーツなど将来あらゆる分野で活躍できる山梨の子供たちの個々の特性が伸ばせるよう、環境を整えてほしい。
甲府市内での教育や文化、スポーツの行事がイベントが多い様に感じる。他地域でもやってもらえると参加できる。
文化、芸術が劣っている気がする。
美術館、博物館に素晴らしい作品展示品があるのに、なかなか利用していない。もう少し一人一人が関心を持ち、教養を身に付けたいと思う。
連携体制
教育は学校だけでなく保護者も地域も連携して、教育全般のレベルを上げていく努力をしていく必要がある。
教育・医療・福祉の専門機関の連携をもっと密に気軽に図れる場をつくってほしい。
教員の業務を増加させ、現場の負担を増やすのではなく、効率的な業務化を図って欲しい。子育ては、親だけでなく行政・学校・地域住民が連携して行う事が今後の山梨・日本を担う人材を育てる事だと考える。行政・学校・家庭・地域が一丸となって世界に誇れる人材を山梨から発信してほしい。
グローバル化
オリンピック等もあるので日本と他の国について考え、観光やスポーツにおいてホスト国として交流したい。
子供の国際交流がもっとできるようにしてほしい。中学生のホームステイなど他国を感じることは自国や自分自身のよい所に気づけると同時に、多様な考え方を認めるきっかけにもなると思う。姉妹都市との交流を県として促してほしい。
これから益々、外国との交流が盛んになり、語学力・コミュニケーション能力、国際感覚等が要求されるが、県ではそれなりの対応策を考え、行動計画を作成し、実行に反映しているので推進を図ってほしい。
その他
異世代の交流が中・長期的に続けられる様な環境作りをしてほしい。核家族化の中で子供達は外でも同世代の付き合いが少ないのでそこで悩みを抱えた時に逃げ場がない。そこで少し上の世代や下の世代と関わることで自分の居場所を少しでも得られたら前向きに進もうと思う。
私立学校など学校の選択肢が特に少ない。
リニアが来てベッドタウン化するには高度な教育がないと都会の人は移住まではいかないと思う。有名私大附属校を誘致するなどの教育都市としての都市計画(筑波)のようなものを期待する。
悩みを抱える子供や学習に困難を持つ子供にとっての相談先が不十分。県の教育センターなどでもまず相談をするまでに半年も待たされるというのは言語道断ではないか。

給食一つとっても行政の本気度など全く伝わってこない。子供を将来を担う宝として大切にしたいならば、まず上の人間がやるべきことはあまりにも多いのでは。全ての大人が本気でなければ子供など育つ定理がありません。行政と教育機関、教育現場、家庭、地域が密接にかかわっての「教育」が本来であるべき。
山梨県内の映画館が大型商業施設だけなので、映画館をもっと増やしてほしい。学生はもっと安くして、いろんな映画をみる機会が増えるといいと思う。
山梨県の持つ特性についてあらためて多様な視点から分析しなおして、これからこの地域がどういう方向へ進むべきかについて、考えていくことがまず大切であると思う。果樹王国を続けるならば、どうしなければならないか。また別の方へ進むならばまた何が必要なのか。全県民が真摯に考えるべき時期だと思う。その上での"山梨教育"であるべきだと思う。
甲斐市のPTA協議会の講演会で、性教育についての講演を聞いたがとてもためになった。小学生では早い内容だが、中学生では知っていた方が良い内容だと思った。ぜひ、山梨県全体で生徒に講演を聞いてほしいと思う。
自然豊かな資産を活かし、積極的にアピールしたほうがよい。(登山など)子供の頃から魅力に気づいてほしい。
山梨県に住んでいるからこそ出来る教育があると思う。山梨らしい個性あふれる豊かな人材が育つことを望む。学び育てても、皆、県外へ出てしまう。魅力ある県市町村づくり、Uターンしたくなる街づくり、奨学金、何%など援助、免除、等、働き方改革より働きたくなる企業づくり、町づくり、人口が増え、活気ある町にしてほしい。
教育県と言われることが第一。
学力の向上、健康な体づくり、社会のルールを知ること、一般常識(あいさつなど)を、学校と家庭で教えていけるようにしていければと思う。
食育とアレルギー対応の充実を望む。
子供達が生活しやすい環境作りに努めてほしい。
体罰の見直し。
マイナーなイメージの強い山梨を少しでも明るく、誇りに思い、県内に、地元に残っていけるような教育や魅力があるような形にしてほしい。
山梨の教育も大切ですが、もっと大切なのはいまの子供達がどれだけ山梨県に残ってくれるかだと思う。山梨に住みたい、と思うような魅力作りにも力を入れてほしいと思う。中部横断道、リニアを活用して、もっと山梨を良くしていく、そのためにはどうしたらいいのか、そういう事を子供のうちから考えていく教育も大切だと思う。
富士山の麓に住む子供達に優先的に山頂まで登山できるシステムを望む。
学校に隔週ではなく常にスクールカウンセラーがいてほしい。子供達にとって、相談したいタイミングで聞いてもらうことが大切である。
高校に進学すると、朝・夕の送迎が必要になり、村の子供たちのほとんどが車で通学しなければならない状態。スクールバスを運行してほしい。
私は英語の通訳者だが、地域のALTとして活動を申し出たところ、「日本人」であるという理由で断られた。多種多様な人種がいて、そのような人達と渡り合っていけるスキルを付けるのが、真のグローバル教育と考える。
山梨県で教育を受けたと子供達が誇りを持てるような取り組みを期待している。
支援学校の先生方の指導の充実、接し方の改善。
県の方針と教育の方針が結びつく所がどの位明確になって教える側も理解し、県内の拡大につながるのか。方針を持ち共同で計画された教育が行えると有効である。企業誘致、会社発展のフォローに力を県が入れ、教育とつながる(高度教育)を社会で生かせると思える県づくりがあれば、教育もさらに生きると思う。
もっと県内出身の有名人が多くなるとうれしい。
健常者と障害者が一緒に活動できる事の充実。
行政に求めていることを把握し、それを事業に活かすという目的の質問が多く感じた。「やまなしの教育」を県民一人一人が主体となって「未来をつくる」という意識をもって関わられるような導きが必要だと思うので「行政としてどのようなことに力を入れたらよいか」という問いではなく、「あなた(県民)ならどうしますか。」の質問形式の方が良いと思う。
少子化で学校の統廃合が進み、学校数は減り続けている。地域に学校がなくなれば、増々地域はさみしくな

り、若者は住めなくなる。若者をひきとめようと思っても、就職場所がない。周りは老人ばかりである。甲府駅周辺も開発は進んでいるが、他県に比べれば何と小さな県庁所在地か。若者が住める魅力ある山梨づくりを進めてほしい。
人づくりが教育の基盤であると思う。
子供達の教育がこの世の中で一番必要大切と思います。
現在、パソコン(インターネット)主流の世界になっています。私はパソコンを持っていません。今後、低賃金もしくは行政の援助が必要。
行政として現代の取り組みをして、いろいろ進めていってくれていることはよくわかる。しかし、形式上はあるが、その後のフォローやより深い対応が少ない気がする。
山梨の教育がわかりやすく説明されたパンフレットのような物を無料で提供してもらえるとうれしい。
どんな活動、行事等、計画、実施しても参加する方々はほぼ決まっている方々の出席のようである。
子供の居場所を増やしてほしい。お年寄りも赤ちゃんも障害や国籍の違いも関係なく、だれでも集える場所があったらいいと思う。
全部とは言わないが、自転車のマナーが悪い。部活では周辺に迷惑のないよう願う。
大人のモラル低下にともない子供を指導できる人材がいなくなっている気がする。
今まで教育について考えたことがなかったので、こういう質問には全く適確に答えられなかった。